

令和7年度 研究まとめ

≪ I 今年度の研究概要 ≫

1. これまでの研究の成果と課題及び本年度の研究の方向性

- (1) 本校の研究経過
- (2) 本研究の方向性
- (3) 研究仮説
- (4) 研究の目的
- (5) 研究の方法
- (6) 研究体制

2. 今年度の取り組み・授業改善の取り組み

- (1) 今年度の研究活動
- (2) 実践報告

(小学部国語分科会、中学部・高等部国語分科会、中学部・高等部職業分科会)

3. 考察

4. 成果と課題

5. 資料

- (1) 目指す姿
- (2) 個別最適な学びと協働的な学び
- (3) 授業シート
- (4) 授業づくりのコツ
- (5) 協働的な学びのステップ
- (6) 単元配列表
- (7) 個別最適な学びと協働的な学びの授業作りのヒント

≪ II 実践報告資料 ≫

1. 「国語数学（個別学習）・小学部」（小2、小3、小4、小5）

2. 「国語（グループ）・小学部」（小1、小2、小4、小4）

3. 「国語（グループ）・中学部・高等部」（中1、中2、高1、高2）

4. 「職業・中学部・高等部」（中1、高2、高3）

令和7年度 東京都立王子特別支援学校 研究のまとめ

はじめに

今年度で3年計画の研究の最終年となりました。これまでの研究の成果については次で説明を行いますが、今年度、本校は現在の王子特別支援学校となって7年目を迎え、旧王子特別支援学校(高等部単独校)から創立60周年の節目の年を迎えました。現在の王子特別支援学校になり、最初の1年は研究活動を行わず、2年目から研究に取り組みました。新学習指導要領の告示と同時期に新しい学校への合併が行われたため、遅ればせながら令和2年から新学習指導要領についての研究となり、3年間は新学習指導要領の読み解きなどの作業を中心に行いました。その後、本研究テーマとなり、授業作りを中心とした研究を進めてきました。新学習指導要領を基に、日々の授業をどのように展開し、授業改善を行うことで、教員の授業力を向上し、学校全体の授業力を上げていき、児童・生徒が成長していくことを最大の目的として、本研究をスタートしました。教員の異動も多く若手教員の割合も多くなっていく中で、授業力の向上については、今後も引き続き取り組み続けていく必要があると考えています。

I これまでの研究の成果と課題及び本年度の研究の方向性

(1) 本校の研究経過

(旧)王子特別支援学校(高等部普通科単独校)と王子第二特別支援学校(小学部・中学部)が合併、平成31年に現在の王子特別支援学校(小学部・中学部・高等部普通科)として再編。本年度で開校7年目。旧王子特別支援学校から創立60年となります。

令和2年度の研究

研究テーマ	「新学習指導要領に応じた学びの充実」 ～社会に開かれた教育課程の実現に向けた12年間のシラバスの作成～
成果	・学習指導要領の全面実施に合わせ、各段階の目標や指導内容についての文献研究 ・各教科で学習指導要領から内容構成表、単元配列表を作成

令和3年度の研究

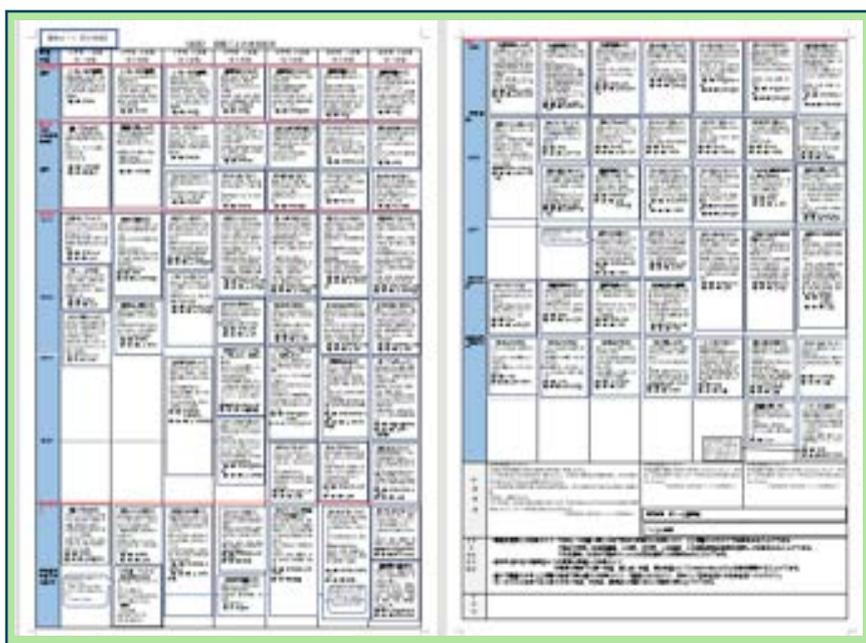
研究テーマ	「新学習指導要領に応じた学びの充実」 ～社会に開かれた教育課程の実現に向けた12年間のシラバスの作成 2～
成果	・昨年度の研究テーマを継続実施 ・学習指導要領についての文献研究 ・令和2年度作成の単元配列表の更新

令和4年度の研究

研究テーマ	「知的障害小・中・高一貫校における教育的対応を踏まえた授業づくり」 ～王子の「一貫した教育課程」の構築に向けて～
成果	・単元配列表を基に授業づくりを実施。 ・単元配列表を横に見て、全7段階のステップを意識した。

作成資料【単元配列表】について(令和2年度、3年度作成)

- ・具体的な指導領域と内容の整理を行った。
- ・単元の位置付けと段階の具体的な指導内容を明確化した。(全7段階の指導内容が分かる表にした)



学習指導要領の読み解きを全教職員で取り組むことができました。また、学習内容について単元配列表を作成しました。一方で、具体的な授業内容の取り組みや改善、実態に応じた学習内容の工夫など日々の授業の充実について、今後取り組む必要が課題として見えてきました。

(2) 本研究の方向性

令和5年度からの研究

研究テーマ(3年計画)	
「個に応じた確かな学び12年間をつなぐ授業実践～個別最適な学びと協働的な学びを通して～」	
令和5年度	国語算数数学自立活動 朝のモジュールとコマの授業づくり授業改善を行う。モデル事例を検証していく。
令和6年度	「伝え合い学び合う」国語、職業 自立活動の要素を取り入れた協働的な学びを目指した授業づくり。
令和7年度 (本年度)	カリキュラムマネジメントの視点で、年間指導内容の整理を行う。

研究テーマ「個に応じた確かな学び12年間をつなぐ授業実践～個別最適な学びと協働的な学びを通して～」3年計画で実施。今年度は最終年3年次となりました。

本研究テーマは令和の日本型教育として中央教育審議会答申より、「個別最適な学びと協働的な学び」が示されたことを受けて、特別支援学校での取り組みを行っていく必要があると考え設定しました。これは新型コロナウイルス感染症という学校現場を大きく変えた未曾有の時期に、ICTの急速な普及や教育内容の大きな変化により児童・生徒が学び続けられる環境を維持、さらには向上していくために“誰一人取り残さない”教育を目指して出されました。この“誰一人取り残さない”というキーワードは、特別支援学校で欠かせないことであり、現在の取り組みを見直すことや今後新たに組み込んでいく必要が多くあると考えました。“個別最適な学び”については、以前から特別支援学校で大切にしてきた「個に応じた指導」にも通じる考え方です。これは、特別支援学校で得意な視点であるが、改めて取り組んでいるか見直すことが必

要であると考えました。また、「協働的な学び」については、特に知的障害特別支援学校では弱点とする内容であるが、協働的な学びについて進めていくことで、思考・判断・表現の充実に繋がると考えて取り組んできました。また、本校は小学部・中学部・高等部があり12年間の学びについて考えていくことも欠かせません。学習指導要領に基づきながら12年間の授業を繋げていく視点をもちながら本研究テーマを設定し、取り組んできました。

1年次は、全学部で国語、算数、数学の教科指導で実践することになりました。また、研究テーマ1年次ということで、分科会を学年単位を基本にしました。

個別最適な学びとは何か。協働的な学びとは何か。協議をすることから始め、授業づくりに取り組みました。授業づくりを進めていく中で、協働的な学びについては難しく、教員間でも捉え方に違いがありました。そこで“協働”をどのように考えるか、分科会ごとに全教員で協議を行いました。その中で“協働”は、児童・生徒同士だけでなく、教員との関係も含まれること、また発達段階に応じて“協働”できる相手や人数が違うのではないかと、という意見が出てきました。協議の記録より、本校で考える「協働的な学びのステップ(仮)」を作成しました。協働的な学びの前段階として“対物”の段階が必ず存在し、その段階を経て協働的な学びに向かっていくという考え方としました。

また、個別最適な学びについては、本校で考える個別最適な学びを「自立活動の視点」でとらえることにしました。個別最適な学びとは、特別支援教育で以前から大切にしてきた“個に応じた”指導にも通じる考え方です。個に応じた指導は、特別支援学校で得意とする部分ですが、今一度、授業の中で実践できているのか、工夫や取り組みについて考えました。

1年次の取り組みの中で、課題として明確になったこととして、

- ・個別最適な学びの観点として自立活動の視点を取り入れたが、実際に授業に落とし込む部分が弱かった。
- ・協働的な学びは知的障害教育の中で課題である。(令和5年度講師:中西郁氏より)

研究テーマ2年次として取り組むにあたり、大きく変えた点として、サブテーマとして「伝え合い学び合う」を設定しました。また、個別最適な学びの観点として自立活動をベースとした授業作りをより充実できるようにしました。また、協働的な学びの観点として、授業の中に“しかけ”を組み込むようにしました。さらに、分科会の単位を学年から縦割りでの構成とし、取り組む教科を国語と職業としました。これらは、1年次の研究を受けて今までのように知識・技能を中心とした授業だけでなく、どのように学ぶのか“学び方”に注目をしながら、思考・判断・表現を意識し、より主体的に学びに向かう態度を深めていく実践に取り組んでいくことが必要であることから、2年次のサブテーマとして「伝え合い学び合う」を設定しました。“伝え合い”はコミュニケーション、“学び合う”は思考・判断を深め、教師や友達とのやり取りを増やしていき主体的に学びに向かう授業を目指しました。また、2年次より小学部国語分科会、中学部高等部国語分科会、中学部高等部職業分科会の大きく3つの分科会編成での教科指導の中で本研究に取り組むことにしました。

2年次では、個別最適な学びについて、各授業の中で個々に応じた手立てや配慮ができているのかどうか、また、取り組んできた手立てや配慮が自立活動のどの部分なのか、逆引きの考え方で実践を改めて整理していくこと、またICTの活用などを含めて実践していくこととしました。

協働的な学びについては、1年目の研究で知的障害教育の弱点であることがわかりました。協働的な学びについては、すべての授業において意識して取り組んでいくために、協働的な学びの「ステップ」と「しかけ」をより意識し、実践に取り組んでいくことにしました。

3年次での研究は、2年次の研究を引き続き充実させていけるよう取り組みました。サブテーマ「伝え合い学び合う」を継続し、分科会の構成や教科も継続しました。また、今年度は3年計画の最終年になるため、これまでの研究で取り組んできたことを、全教員が自身の授業改善に生かし、授業力を向上させることを大きな目標としました。各分科会で取り上げた

授業事例について、他の教員が具体的な教材をもってきてアドバイスをを行うことで、より自分事として考えることができるような協議を目指しました。また、多くの教員の異動や若手教員の増加も考え、2年次の研究で取り組んだことを充実させることができるようにしました。今年度の研究の最後には、全教職員が自身の授業の改善案を考え、ワークシートにまとめました。3年間繰り返し取り組んできた、個別最適な学びと協働的な学びについて再認識して実践について考えました。

3年間継続して取り組んだこととして

- ・共通の授業シートを使って授業づくり授業改善を行った。
- ・協働的な学びのステップを意識した授業に取り組んだ。
- ・個別最適な学びの観点として自立活動をベースとした授業づくりを行った。

継続して取り組むことで、授業作りの観点を共通認識しながら進めることができ、個別最適な学びと協働的な学びを往還的に取り組んでいくことで、よりよい授業作り授業改善に取り組んでいくよう校内研究を進めていくことにしました。

(3) 研究仮説

個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実することで確かな学びが促され目指す姿が実現できるのではないかと考えました。個別最適な学びと協働的な学びを効果的に設定し、ねらいを明確にした授業実践を行うことで、児童・生徒の“わかる、できた”（確かな学び）が積み重なり「目指す姿」を実現できる。このような授業実践・改善を繰り返すことで仮説の検証につながる。

(4) 研究の目的

- ・自立活動をベースとした授業づくりを実践する。
- ・自立活動をベースにした上で「伝え合い学び合う」協働的な学びの授業実践をする。
- ・「目指す姿」と「単元事例一覧表」を活用した授業づくりの方法と評価改善を明確にする。
- ・学部間のつながりが見え、一貫性、系統性、発展性のある指導を行う。

(5) 研究の方法

研究の目的を達成するための研究方法として以下のように実施しました。

- ・国語と職業の教科指導の中で、研究を進める。
- ・「目指す姿」※1「単元事例一覧表」※2を活用しながら授業シートを作成する。（12年間をつなぐ）
- ・自立活動の項目から実態把握を行い、自立活動のねらいを明確にする。
- ・協働的な学びのステップを活用し、協働的な学びの段階を踏まえた「しかけ」を組み込んだ授業展開をつくる。（システム作り）
- ・授業の中で、やりとりの質や量を記録する。（プロセスの整理）
- ・児童・生徒が思考したり判断したりしながら学んでいる場面を記録する。（エピソードの記録）

※1 昨年と今年度で作成

※2 令和2年度作成の単元配列表を令和5年度に再編成

研究は分科会形式としました。全教職員が分科会に所属し、取り上げた事例について所属の教員全員で授業改善を図ります。分科会は、以下のように組織しました。

分科会の編成

分科会1: 小学部 国語分科会	①グループ(ステージⅢ-2以上を中心とした研究グループ) ②グループ(ステージⅢ-1を中心とした研究グループ) ③グループ(ステージⅡを中心とした研究グループ) ④グループ(重度重複学級を中心とした研究グループ)	本校外部専門員 河村 智子氏
分科会2: 中学部高等部 国語分科会	1グループ 2グループ(中学部高等部を均質に2グループに分ける)	本校外部専門員 磯部 裕子氏
分科会3: 中学部高等部 職業分科会	1グループ 2グループ	東京都就労支援 アドバイザー 藤田 誠氏

(6) 研究体制

校務分掌組織、研究研修部研究推進部門を中心に学校研究の運営を進めました。研究の推進にあたって、川口短期大学教授 井上昌士先生に指導・助言、各分科会講師の先生より、授業実践について改善等のアドバイスを受けるため、年間数回の授業観察・助言を設定しました。

研究全体 川口短期大学教授 井上 昌士氏		
分科会1: 小学部国語分科会	分科会2: 中学部高等部国語分科会	分科会3: 中学部高等部職業分科会
本校外部専門員 河村 智子氏	本校外部専門員 磯部 裕子氏	東京都就労支援アドバイザー 藤田 誠氏

2 今年度の取り組み・授業改善の取り組み

(1) 今年度の研究活動

4月	研究方針説明会 ・今年度の研究の方向性について説明 ・モデル事例の提示
4月	全校講師講演 【研究テーマに関する基礎研究】 ・研究テーマを踏まえて自立活動についての講演会
5月	分科会の編成 ・小学部国語分科会—この中をさらに認知別に4つのグループに分ける ・中学部高等部国語分科会—2つのグループに分ける(中学部と高等部を均質に分ける) ・中学部高等部職業分科会—2つのグループに分ける
6月	分科会ごとに講演 【研究テーマに関する基礎研究】 ・本校外部専門員 河村 智子氏(小学部国語分科会) ・本校外部専門員 磯部 裕子氏(中学部高等部国語分科会) ・東京都就労支援アドバイザー 藤田 誠氏(中学部高等部職業分科会)
7月	授業実践I 【授業に関する研究】 ・各分科会ごとに授業実践の共有、協議

7月	夏季教材展示 ・全教員が1点以上の教材提出	【教材研究】
8月	教材研修会 ・教材の活用方法を発表、展示 ・豊島区特別支援学級設置校に公開	【教材研究】
9月	縦割り報告会1 学校全体を大きく2グループに分ける。小学部中学部高等部の教員を均等に分ける。各学部の授業を発表。 ・1学期に協議をした「目指す姿」について報告 ・1学期の授業実践について発表(5事例) ・本校主幹より助言	【12年間の共有】
9月	授業実践2 ・各分科会ごとに7月の授業実践の改善案の発表	【授業に関する研究】
9月 10月	分科会講師(河村智子氏、磯部裕子氏、藤田誠氏)による授業観察、助言	
10月	授業実践3 ・各分科会ごとに授業実践の共有、協議	【授業に関する研究】
11月	授業実践4 ・各分科会ごとに10月の授業実践の改善案の発表	【授業に関する研究】
12月	川口短期大学教授 井上昌士氏による授業観察、助言	
12月	分科会まとめ	
12月	縦割り報告会2 学校全体を大きく2グループに分ける。小学部、中学部、高等部の教員を均等に分ける。各学部の授業を発表。 ・2学期に取り組んだ授業づくり授業改善についての報告(5事例)	【12年間の共有】
1月	全国公開実践報告会 川口短期大学教授 井上 昌士氏 本校外部専門員 河村 智子氏 本校外部専門員 磯部 裕子氏 東京都就労支援アドバイザー 藤田 誠氏 ・授業公開 ・ポスター発表 ・分科会ごとに実践報告 ・講師講演助言 ・教材展示(全教員が1点以上教材を展示)	
2月	研究のまとめ発行	

(2) 実践報告

小学部国語分科会

実践報告会 小学部4年 国語「話を聞こう」

発表者 教諭 吉田 万太郎

児童の実態

対象児の実態

- ・2～3語文程度でコミュニケーションをとることができる。
- ・感覚刺激を求めて、離席をすることがある。
- ・平仮名や片仮名、簡単な漢字の書字・読みができる。

アセスメント

太田ステージⅢ-2（前期）

目指す姿

- 伝える手段を身に付ける。
- 自分でやってみようという気持ちをもつ。
- 注目して話を聞く。

自立活動の目標（個別最適な学びの観点）

- こだわりがある。（心理的な安定）
- 特定の教員とコミュニケーションをとる。（人間関係の形成）
- 単語や2語文程度を話す。（コミュニケーション）



自立活動の目標

- ① 答えを聞き、正しいものを選ぶ。
- ② 台詞カードを基に、他者と関わる場面を増やす。

自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・「人間関係の形成」「コミュニケーション」に課題がある。
 - ・特定の教員とはコミュニケーションを取るが、一方的になりやすい。
 - ・特定の物以外への関心が薄く、活動に集中できないことがある。
- ⇒意図的に**教員や友達と関わる場面を設定し**、双方向のコミュニケーションを取れるようにする。
- ⇒活動に**関心をもって参加できる仕掛け**をつくる。

小学部4年の実践報告

国語 言葉の働き(語彙)

小学部2段階【話をよく聞こう】

授業名 「話を聞こう」

活動1 「ばらばら文字」

活動2 「これなあに」

【グループの実態】

- ・自閉症学級に在籍する太田ステージⅢ-2(前期)
- ・対教材や決まった教員には力を発揮するが、双方のやり取りには課題がある。

改善前の様子

●ばらばら文字

- ・友達の作った単語に対してイラストを貼る活動が、**他者への意識**につながっていた。
- ・活動内容を理解しているが、**取りかかるまでに時間がかかる様子**が見られる。

改善前の様子

●「これなあに」

- ・意図的に「ヒントを教えてください」と言う場面を設定し、**教員とのやり取り**をすることができた。
- ・**教員の話をよく聞いていない様子**が見られる。

協議で出てきた意見

教材	支援方法	環境
文字を大きくしたり、 白抜き文字 にしたりすると見やすい。	二人一緒に活動することで、 待ち時間が少なくなっていた。	ヒント、文字カード、台詞など、 見るものが多く距離があるため、視点が定まりにくい。

他者との関わり（協働的な学びの観点）

- ・児童同士でのハイタッチを設定していたことで、一緒に学習する**友達への意識**が高まっていた。
- ・「ヒントを教えてください」という台詞は、将来の**支援要請**や**やり取りの学習**につながる。

改善したこと

①「ばらばら文字」（平仮名の構成、単語の理解）

- ・白抜き文字に変更
- ・単語の下にイラストカードを貼るよう設定

→やることや流れを視覚的に
分かりやすく



改善したこと

①「これなあに」（やり取り）

- ・二人一緒に取り組み、待ち時間を短縮
- ・選択肢を減らし、枠に収めて、提示方法を明確に
- 提示する情報を絞り、
活動に集中できるように



「伝え合い学び合う」仕掛け （協働的な学びの観点）

- ・決まった台詞を教員に伝える活動
- ・教員の言葉をよく聞く活動
- ・友達と一緒に取り組む場面
- ・個々に応じた教材に取り組む場面
- ・友達の活動が見える環境づくり

目指す姿の実現に向けた次へのステップ

- 3語文を構成し、イラストを作成する活動に友達と役割を分担しながら取り組む。
- 個別に操作できる教材を作成する。

目指す姿の実現に向けた次へのステップ

①「ぶんをつくろう」（文の構成、理解）

- ・3語文を構成し、イラストを作成する活動
- ・イラストを作成する友達を選び、依頼する場面の設定
- ・友達と一緒にハイタッチをする場面を設定

→3語文の理解を深める
他者を意識する



目指す姿の実現に向けた次へのステップ

①「これなあに」（聞き取り）

- ・「ヒントをください」
→「**出題前に効果音を鳴らす**」に変更した
- ・個別に操作できる教材の作成することで待ち時間の軽減
- 主体的**に聞く・学ぶ姿勢づくり



取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

個別最適な学び

- 児童に応じた問題の難易度設定（選択肢を絞るなど）
- 活動内容が視覚的に分かりやすい教材配置
- 個別に操作できる教材の作成

協働的な学び

- 友達と一緒に3語文の理解を深める活動の設定
- 児童同士でハイタッチをする場面の設定
- 音を使用した主体的に聞く姿勢づくり

獲得した確かな学び

知識・技能

●平仮名の構成、身近な名詞や3語文の理解、ヒントを聞いて関連するものを見つける力が身に付いた。

思考・判断・表現

●文字や文を見て正しいものを選択したり、他者を意識した適切な方法で発表をしたりしていた。

獲得した確かな学び

主体的に学びに向かう態度

●活動後に友達とハイタッチをしたり、教員の発する言葉や音を主体的に聞こうとしたりするなど、他者を意識したやり取りをしていた。

実践を通して分かったこと

- ・個別の教材を作ったことによって**児童のできたが視覚化**され自信をもって発言する児童の姿が見られた。
- ・「ぶんをつくろう」では、主語・述語を色分けすることで苦手意識のある児童も**自信をもって取り組む**ことができた。また、理解の進んでいるグループには述語を意識させることで声に出して読むときに意識して読む姿が見られた。
- ・教員がペアを決めるところから、児童自身がペアの友達を選択する方法に変えたことで、**他者を意識**できるようになってきた。

中学部高等部国語分科会

実践報告会 中学部1年 国語「考えよう、伝えよう」

発表者 主任教諭 野崎 裕紀子

生徒の実態

グループの実態

中1全7グループ中、一番発達段階の高いグループ。平仮名、片仮名の読み書きはほぼでき、落ち着いて授業に取り組めるが、新しい活動に不安を抱く生徒が多い。自分の意見を考える、発表するなどの活動に対しても、年度当初は戸惑いがあり、自信のなさや経験の少なさが見受けられる。

アセスメント

太田ステージⅢ—2 前期1名 後期3名
IV—1 2名 IV—2 1名 計7名

目指す姿

- 積極的にコミュニケーションしようとして
することができる
- 自己選択、自己決定
- 課題や活動に前向きに取り組める

自立活動の目標（個別最適な学びの観点）

本時の自立活動の目標

- 学習内容や活動内容に見通しをもつことで、意欲的に活動できる。
(心理的な安定)
- 自分の意見を持ち、話し合いの仕方を学ぶ。(人間関係の形成)



自立活動の目標

- ① 自分の気持ちや意見を考え、表現したり伝えたりすることができる。
- ② 前向きに学習活動に取り組むことができる。
- ③ 双方向のコミュニケーションを行うための基礎的能力を身に付ける。

自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・特に「**心理的な安定**」「**人間関係の形成**」「**コミュニケーション**」に課題がある。
- ・新しい課題に対しての不安感が強く、ネガティブな発言が多い。本人の気持ちを受け入れながらも、自分事として前向きに学習に取り組めるような活動を設定していく。
- ・友達同士での関わりが期待できるため、楽しみながら話し合いの基礎となる活動を取り入れていく。

中学部1年の実践報告

国語	
言葉の働き（語彙）伝え合う（伝える）（話し合う）	
中学部2段階【言葉を広げよう】【思いや考えを伝えよう】 【役割を決めて話し合う】	
授業名	「考えよう、伝えよう」
活動1	「アドジャン」で、自分の意見を理由と共に伝える。友達の意見を聞く。
活動2	お互いに気持ちよく過ごすために、場面に合ったふわふわ言葉を考える。
活動3	ふわふわ言葉の良さを誰にどのように伝えるか話し合う。
活動4	ふわふわ言葉の良さをまとめ、友達や教員に伝える。

「アドジャン」について

- ① 0～9まで、10個お題を考える。（こちらが提示しても可）
- ② 「アドジャン」の掛け声で、0～5までの好きな数字を指で出す。
- ③ 数字を全部足す。
- ④ 下1桁の数字がお題になる。
- ⑤ お題について、順番に話す。

ここで、
 ・自分の意見を理由と共に言う。
 ・次に話す人を選んで、「〇〇さんはどうですか？」と聞いてつなげる。
 というルールを加えた。

「伝え合い学び合う」しかけ （協働的な学びの観点）

- ① 自分達でお題を考える場面の設定
- ② 「アドジャン」で話し合いの仕方を練習
- ③ ワークシートの活用
- ④ 実際の生活の中で起こりそうな場面を設定
- ⑤ グループでの話し合い、決定する練習
- ⑥ 第三者に伝える活動の設定

改善前の様子（課題点など）

- ・自分たちで「アドジャン」のお題を考えることで、自分事として捉えて活動できるようにする。
- ・自分の意見を伝えた後、次の人を指名して順番に話をし、話し合いの仕方を覚えられるようにする。
- ・自分でワークシートに考えを書いた後に、全体で発表して、友達に伝えたり、友達の意見を聴いたりできるようにする。
- ・実際に生活の中で起こりそうな場面を設定し、イメージをもって具体的に言葉や表現を考えられるようにする。

協議で出てきた意見（アドジャンで自分の意見を理由と共に伝える。）

教材	支援方法	環境
導入にゲーム要素を取り入れること	教員が最初に見本を示すことで進め方が分かり、参加のハードルも下がった。どんな意見でも肯定してくれる雰囲気、意見や理由を伝えられたときには称賛される手立てがあることで、生徒の自己肯定感が高まる。	机をなくし椅子を円形に配置することで、話しやすい雰囲気が生まれていた。一人の発言から他の生徒に間かけがなくなり、対話が自然に広がっていた点も良かった。

他者との関わり（協働的な学びの観点）

- ・相手の顔を見て、名前を呼んでから発言を促すなど、丁寧なやり取りができていた。
- ・話し合いとして、とても良い実践だった。
- ・協働的という点では、生徒同士でのやり取りがまだ十分とは言えず、主に教員との対話に留まっているようにも見た。その点では、教員へ伝えることできているので、今後、そこから生徒同士の会話、話し合いにつなげていけると良いのではないかなと思う。

協議で出てきた意見（場面に合ったふわふわ言葉を考える。）

教材	支援方法	環境
具体的なシチュエーションを教材にしていて、生徒がイメージしやすくて良かった。	お題が用意されていることで発言のしやすさが生まれ、生徒の主体的な関わりを促していた。	実生活に結びつく場面設定により、イメージがしやすくなっていた。他者の意見に触れ、それを自分の考えとして取り入れる機会が設定されていてよかった。

他者との関わり（協働的な学びの観点）

- ・「答えのない問い」により多様な意見が出やすく、他者の考えに触れる良い機会になっていた。ただし、抽象度が高くなると難しさを感じる生徒もいるため、国語のねらい「伝え方・言い方」を明確にし、ロールプレイなどを通して実感につなげる工夫が有効ではないか。

改善したこと

①ふわふわ言葉の良さをどのように伝えるか

考え、話し合う。

- ・「アドジャン」で慣れた話し合いの形式で、意見を出しやすくする。
- ・2～3人のグループに分かれて、伝える内容や進め方などを生徒同士で話して決める練習をする。

改善したこと

②ふわふわ言葉の良さを分かりやすく動画に まとめ、友達や教員に伝える。

・相手意識をもって活動ができるように、授業で学んだ「ふわふわ言葉の良さ」を第三者に伝える活動を取り入れる。台本作成、撮影なども2～3人の小集団で話し合いながら行う。

取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

個別最適な学び

- イラストなどを用いて、課題の内容を理解してから考えられるようにした。
- 2～3人での話し合いの際に、話し合いのテーマを書いたプリントを渡し、考えることを視覚的に分かるようにした。
- 慣れるまでは、安心して自分の意見を言うように、他の人の発言を聞いた後に、指名するように順番を工夫した。
- 自分なりの意見や理由を伝えられたときは、大きく称賛した。
- 失敗を恐れなくてよいことを伝え、うまくいかないときに試行錯誤できたことを褒めるようにした。

取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

協働的な学び

- 集団での学習の良さを生かし、年度当初は、自分の意見を出すことが難しいときには、友達の考えの中から、自分の考えに近いものを選ぶようにした。
- 相手と向き合って、お互いを見ながら話し合いの活動ができるよう、学習環境を整えた。
- 困ったときには「分かりません」「教えてください」と言える雰囲気を作った。
- 自分達で考えたことを実践することで、みんなで一つの目標に向かって意欲的に取り組めるようにした。

目指す姿の実現に向けた次へのステップ

- ・事後の活動として、生徒から出てきたよい言葉を掲示する。
- ・編集も生徒の活動にする。
- ・どのような場面で使えそうか考えて、実践してみる。
- ・1週間のうちで言われた嬉しかったふわふわことばを発表し合う。
- ・全員で1つの動画(まとめ)を作ったが、2グループでそれぞれまとめを作り、学習グループ内でも意見交換できるようにする。

獲得した確かな学び

知識・技能

- 練習を繰り返すことで、自分の意見を持ち、理由と共に伝えることができるようになった。
- 学習した「ふわふわ言葉とちくちく言葉」について、第三者に伝えることで学習が定着した。
- 話し合いの仕方について学び、自分の意見を言ったり、相手の意見を聞いたりする活動に慣れることができた。

思考・判断・表現

- お互いの意見を認め、良いものを選んだりまとめたりすることができた。
- どうしたら分かりやすく伝えることができるか、考えることができた。

主体的に学びに向かう態度

- 友達と意見を出し合いながら、小集団で話し合おうとすることができた。
- 友達と協力しながら、相手意識をもって動画作成の活動することができた。

中高職業分科会

実践報告会 高等部2年 教科「職業」

発表者 主任教諭 島田 剛
教諭 横田真理子

生徒の実態

対象生徒の実態

高等部2年J組 総合類型

明朗だが、比較のおとなしい性格。なんでも受け入れる割に自分からの発信が乏しいため、自分の中にため込んでしまう傾向が強い。

アセスメント

太田ステージⅣー2

目指す姿

- 自分の能力や適性を知り仕事に励む大切さを知る。
- 自分の得意なこと、苦手なことが分かる
- 色々な進路先を知る。自分の事として考える機会とする。
- 自己決定、自己選択
- 自分の気持ちや状況を正しい形で伝えることができる。
- 助言や支援を受け入れて修正ができる。

自立活動の目標（個別最適な学びの観点）

対象生徒の実態

- 体が硬い。特に肩甲骨周り。（健康の保持）
- 受け取った話を消化しきれずため込み、心理的に不安定になることが多い。（心理的な安定）
- 人の話を受け取る一方で自分からの発信は苦手。（コミュニケーション）

自立活動の指導内容

- ①現時点での自分の意見・考えをまとめる。
- ②経験を振り返り、身の回りの要素（他者の意見や自分の能力）を具体的に考えた上で主体的に決断できる素養を育む。

自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・人の話を受け取れるが、自分の中で消化しきれずに、心理的に不安定になることが多い。（心理的な安定）（コミュニケーション）
- 語彙を増やす活動を設定していく
- ・緊張が強く、そのため体も硬い。（健康の保持）（身体の動き）
- 緊張の原因を本人と探り、改善案を検討する。

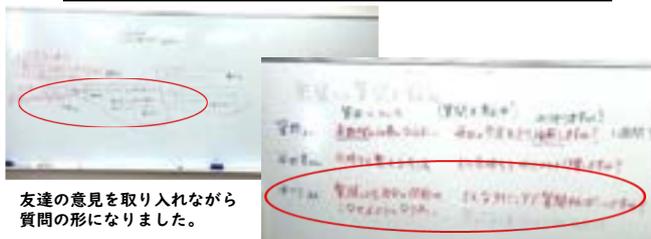
高等部2年の実践報告

学習指導要領の位置付け	職業 高等部1段階【実習の事前学習】
授業名	「実習激励会での先輩への質問を考える」
活動1	1年生の進路活動（特に職場体験）を振り返り、印象に残っていることや活動について記述、発表する。

改善前の様子（課題点など）

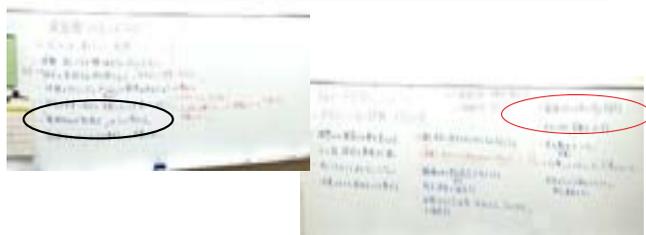
- ワークシートの項目に沿って1年生の活動を振り返ることができた。
- 活動内容の中で特に印象に残っていることを書き出すことができた。
- 友達の意見や助言を受けつつ、自身の考えをまとめていく様子が見られた。

先輩への質問を考える



友達の意見を取り入れながら質問の形になりました。

実習激励会を振り返って



協議で出てきた意見

教材	支援方法	環境
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験から質問を考えるワークシート ・体験実習での職場の方とのコミュニケーション（「ここに置くね」「ありがとうございます」「ここに置くね」などのちょっとした会話） 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を増やす（発言に少し教員が言葉を足す） ・教員が手本を示す（「ここに置くね」「ありがとうございます」「ここに置くね」など） ・自分の経験から自分の課題を導く 	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない人達の中での活動（現場実習は引率なし） ・先輩と直接、質疑応答する環境が「心に響く」一因。

他者との関わり（協働的な学びの観点）

- ・大人の言葉より、同じ立場（先輩）の言葉のほうが有効。先輩の話が「心に響いた」
- 初めて自分の言葉で表現した。
- ・自分の課題から先輩への質問（個別最適な学び）→激励会（協働的な学び）→自分の課題に反映（個別最適な学び）

「伝え合い学び合う」しかけ （協働的な学びの観点）

- ・それぞれの意見を発表し、聞き合う。
- ・意見をホワイトボードに書き出し、見合う。
- ・実習激励会で、先輩の発表を聞く。
- ・実習激励会で、先輩に質問し、回答を聞く。

改善後の取組み

- 「進路について相談していますか？」
- ・新たなワークシートを活用する。
- ・他者の意見をまとめた記録をモニターに出して共有する。

設問1 進路について、相談したいことはありますか？

～みんなの意見～

- 障害者雇用？B型？自分の進む道は？(Yさん)
- 一般就労に行くって、自分は大丈夫か？(対象生徒)
- 福祉サービス、どんなものがあるか？(Kさん)
- 専門学校に行って、その先、就職できるのか？
やりたいことはあるが、実際に仕事としてできるのか？(Iさん)
- 「B型ではむずかしい」、将来の家族の在り方(親が亡くなった後)
収入が多い方がいいが・・・(Tさん)
- 自分の将来って、どうやったらわかるの？(Mさん)
- 毎月10万円、もらえますか？(Nさん)

設問2 不安や悩みはありますか？ その1

～みんなの意見～

- 将来、楽しくても損したらもったいない。やりがいを持てる方法を知りたい。(Tさん)
- 家から職場まで一人で行くのが心配(Hさん)
- グループホームに行ってみて、自分に合っているのか？心配(Hさん)
- モチベーションが続くか、わからない。
自分のアピールポイントがわからない。(Iさん)
- 一般就労して、(職場の人と)コミュニケーションできるか？相談できるか？心配…
⇒～会社の人は怖そう、めっちゃくちゃ厳しそう…(対象生徒)
- 自分はどの会社に行けばよいですか？(Oさん)

設問2 不安や悩みはありますか？ その2

～みんなの意見～

- 他の人との会話が續かない。(Fさん)
- 「なんで(自分が)B型だもったいないのかな？(Yさん)
- パソコン入力がむずかしい、(できるけど止まってしまう)…悩んでしまう。
(Aさん)
- モチベーション・やる気が續くか？(T0さん)
- いきなり仕事を任されて、ミスなくできるか？(Kさん)

設問3

進路について、いまの自分の考え・・・
～今の自分の考え・気持ちを言葉で表してみる～

- ・できそうか？ むずかしいか？
- ・やりたいことは？ いわれたことは？
- ・何をやれば… 何があるのか…
- ・はっきりしたい。はっきりできない。
- ・やりたいことがわからない。
- ・無理でも、どうしてもやりたい！

設問3 進路について、いまの自分の考え・・・

～みんなの意見～

- イラスト系、B型の仕事に就きたい(Yさん)
- 企業によって仕事の種類がたくさんあって迷う(Fさん)
- パン屋、喫茶店で働きたい(対象生徒)
- 事務、清掃の仕事を希望、もっとはっきりできるようにしたい(Hさん)
- CGの専門学校を考えている 仕事としてやっていけるか心配(Iさん)
- 仕事をていねいにしたい(Aさん)

設問4

進路について、他の人(親、先生、先輩…)の意見は？・・・
～同じか？ 別の意見か？～

まだまだ経験不足の自分の意見や考えだけでは**限界**があります。



他の人(自分より経験が多い)の意見・考えを聞いて・・・
自分がより良く生きるヒントを見つける。

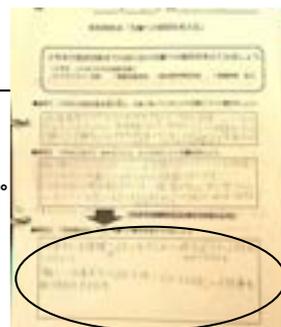
設問4 他の人(親、先生、先輩…)の意見は？・・・

～周囲の人の意見～

- 障害者雇用に行ってもらいたい(Yさん・保護者)
- 不安なことを話してくれる。1つ1つ考え進めていきたい(Fさん・保護者)
- 本人の希望している、パン製造、喫茶にご縁があると良いと思います(対象生徒・保護者)
- 続けていける仕事なのか？合う仕事をみつけてほしい(Hさん・保護者)
- 今からでも意識を変えた方がいい 学費は大丈夫(Iさん・保護者)
- 仕事をする事で自信をもって成長してほしい(Aさん・保護者)

実習報告会の 質問を考える

自分の現場実習の体験から
質問を考えるようになりました。
自分の言葉で、考えられるよう
になりました。



取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

個別最適な学び(自立活動の課題から)
●自分の不安や心配事を自分の言葉で表現してみる。

協働的な学び(実習激励会)
●友達の見解を聞く。
●先輩の発表を聞き、先輩に質問し、回答を聞く。

個別最適な学び(自立活動の課題から)
●質問を自分の言葉で考えられるようになった。
●自分の不安が緊張からくるものであることを自覚できた。

協働的な学び(実習報告会)
●自分の言葉で考えた質問を先輩にし、回答を聞く。

獲得した確かな学び

知識・技能

●友達や先輩の発表や意見を聞きあうことで使える言葉が増えた。

思考・判断・表現

●自分の不安や心配事を自分の言葉で表現できるようになった。

●自分の不安が緊張からくるものであることを自覚できた。

主体的に学びに向かう態度

●学校外のスポーツクラブに参加するようになった。

●生徒会役員選挙に立候補した。(生徒会長に当選しました。)

<p>目指す姿の実現に向けた次へのステップ</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●使える言葉を増やしていく。 ●学年や学校を越えた人との交流を増やす。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員の活動 ・学校外のスポーツ活動 ・喫茶店などで店員さんに話しかける 	<p>実習報告会を振り返って（後日談）</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の進路の希望が具体的になってきた。（カフェみたいところで働きたい） ・緊張しやすいことを緩和するために、自分で外部の人とコミュニケーションをとる経験を増やせばよいのではないか、と本人も思い始めた。 ・対象生徒以外の生徒たちも意見の交換ができるようになってきた。
---	---

3 考察

本研究テーマに取り組み、大切にすることが4点あります。1点目、学部ごとの目指す姿について協議をして授業作りに取り組んだことです。小学部、中学部、高等部の各学部でどのような力を付けたいか、目指す姿について協議をすることで、毎年協議が活発になり、より良い意見が出てきました。2点目は、共通の授業シートを使って協議の視点を統一して授業作り授業改善を行ったことです。授業をよりよくするためにどうしたらよいか、全教職員が考えて協議を進めていくことで、より良い案が出てきて授業が良くなることを実感することができ、学校全体の授業力が向上したと言えます。3点目、思考・判断・表現の充実を意識し、協働的な学びのステップを意識した授業に取り組んだことです。知識・技能に偏ることなく、学び方に注目をして思考・判断・表現の充実を意識したことです。4点目、個別最適な学びの観点として自立活動をベースにした授業作りに取り組んだことです。

個別最適な学びの観点としての、自立活動において、今まで各教員が実践の中で意識せずに取り組み配慮してきたことが、自立活動の考え方であったという逆引きの考えで整理していくことで明確にすることができました。自立活動の手立てや配慮を整理することは、個々の児童・生徒の認知面だけでは捉えることが難しいような部分を、授業を展開する中で教師の経験のようなものに頼って、何気なく配慮したり支援してきた部分を、「自立活動」という視点で説明し直し「言語化」することができたと言えるのではないかと考えます。例えば、太田ステージⅢ-2程度の学習集団で国語の授業を実施していく際、認知的には文字を読んだりすることができる集団であっても、行動面でこだわりが強く、活動の順番に固執しがちな児童生徒がいたり、見通しがもてないことでパニックになる児童・生徒がいるとします。その場合、順番を明確にするために、自立活動の区分、環境の把握の部分で順番を明確に提示したり、活動の手順を明確にするなどの配慮をすることで、授業がスムーズに進行できるようになります。また、発語がない児童がいる場合、自立活動のコミュニケーションの区分で、質問に答える際のカードを準備するなどの手立てによって活動に参加できるようになるわけです。このように、自立活動の視点を明確にすることで、授業がスムーズに進行できるようになることを実践を通して理解することができました。また2年間、国語と職業の授業づくり授業改善に取り組んできましたが、教科のねらいを達成させるための自立活動の視点であることも大切なポイントと言えます。また、教科指導を進めるにあたって、自立活動のどの区分が多かったかという傾向も整理することができました。

国語の授業では、コミュニケーションの区分を意識した授業が多くありました。また、心理的な安定の区分も多く、障害の比較的重い児童・生徒は情緒面でも安定的に取り組むことが難しいことが多いこと、比較的理解の進んだ児童・生徒は周りの人や環境に影響されることも多く、心理的な安定の配慮が大切であることが見えてきました。

職業の授業では、人間関係の形成の区分を意識した授業が多くありました。環境の把握について、生徒の特性に応じた環境の整備や手立ての工夫、手順の示し方などの取り組み方の提供について工夫することで主体的に進めていくことができることが分かりました。

令和6年度

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 22.6% ・環境の把握 16.1% ・コミュニケーション 29.0%
職業	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 36.4% ・環境の把握 22.7% ・コミュニケーション 18.2%

令和7年度

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 20.9% ・環境の把握 13.9% ・コミュニケーション 39.5%
職業	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 33% ・環境の把握 34% ・コミュニケーション 33%

協働的な学びでは、意図的に「しかけ」を設定する授業を行うことで全授業で、やり取りの増加や、質の向上が見られました。この取り組みも2年間継続してきた為、分科会での協議場面でも“他者との関わり、協働的な学びをどのように広げていけるか”という視点での意見が多く出て来るようになりました。協働的な学びを、児童・生徒の発達に合わせて捉えることで(協働的な学びのステップ)児童同士のやり取りを考えるだけでなく、大人とのやり取りや、同じ学習集団の中で友達の様子を参照したりするような活動場面も見られました。教師が意図的計画的に発問をしたり、児童・生徒から出てきた意見を視覚的に提示したり、発表の形を明確にするなどの工夫を行うことで、協働的な学びが促されていくことが分かりました。

協働的な学びのステップの「しかけ」の充実(令和6年授業シート「しかけ」より)

ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ・物を介したやりとり場面を作る(貸して、どうぞ) ・児童を手本にしてまねをする ・教師の発問に対して具体物を選択する ・挨拶をする ・報告をする
ステップ 2-① 2-②	<ul style="list-style-type: none"> ・役割あそびをする・具体物の受け渡しをする。(ください、どうぞ) ・同じパターンでやり取りする(挨拶リレー) ・授業のまとめをタブレット端末で共有する。 ・友達と一緒に音読をする ・友達の評価を聞いたり発表する ・分からない場面で友達に助けを求めたり、一緒に考える ・フォーマットに沿って発表する。聞く人には観点を明確にして他者評価できるようにする。 ・他者の発表を聞いて、よかったことを検索してみる。 ・発表する
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて意見交換をする ・音読する場面の分担を話し合いで決める ・ロールプレイ・互いに評価する

協働的な学びのステップの「しかけ」の充実(令和7年授業シート「しかけ」より)

ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に友達の顔を確認してからカードを渡すようにする。 ・目線を合わせて教師が手を挙げる手本を示しながら、名前を呼ぶ。 ・絵カードや発声、サインなどで要求できる場面を意図的に作る。 ・口形模倣や音声を手掛かりに発声する場面を増やす。 ・学習内容によって、どちらに取り組むか2択で選択させる。 ・絵カードを複数準備したりコミュニケーションブックを準備して伝える場面を多く設定する。 ・活動の終わりに「できました」カードを準備する。合わせて児童の好きなキャラクターカードを準備する。
ステップ 2-① 2-②	<ul style="list-style-type: none"> ・やり取りゲームで話し合いの形式を覚え、意見を出せるようにする。 ・「ふわふわ言葉のよさ」を他者に伝える方法を考えながら動画を作成する。 ・課題に合わせた映像や音を加えてイメージを膨らませ、意見を出しやすくする。 ・前に出て発表する場面をつくる。 ・ヒントを聞くタイミングを明確にするようにする。 ・意図的にダミーの選択肢を準備し、正しい物を「ください」と言えるようにする。 ・セリフを言う場面を明確にする。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて意見交換をする ・発表する際に気を付けることを明確にする。(声の大きさ、速さ、目線) ・友達や先生の話のメモを取る。 ・友達の発表を聞いて、良かったところ、分からなかったところを伝える。

これらの取り組みを通して、個別最適な学びの自立活動の視点と協働的な学びの意図的な「しかけ」を往還的に取り組むことで「伝え合い学び合う」児童・生徒の様子が増えました。(エピソード記録より) 令和6年度と令和7年度の授業シートの記録を比較すると、令和7年度のエピソードが充実していることがわかりました。

授業シートエピソード記録(令和6年)

国語	
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表に注目する様子が見られるようになった。 ・MTと目が合う児童が増えた。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表に合わせて一緒に歌を歌う場面が見られた。 ・発表を聞いて評価するために、よく聞く姿勢が見られた。発表を聞きながら評価を考へたりしている場面が見られた。 ・友達から「いいね」カードを貼ってもらい「やった」と喜ぶ姿が見られた。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> ・順番を忘れていた生徒に声を掛ける場面があった。 ・司会や代役を生徒同士の話し合いで決めることができた。
職業	
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ・座席配置の工夫で、あいさつや発表に注目している生徒が増えた。 ・発声が好きない生徒が自分から「あー」と言いながらプレゼントを渡すことができた。 ・流れ作業にすることで役割を意識して、友達に手渡しする場面ができた。

ステップ2	・友達の発表を聞いて、違った仕事に興味をもてるようになった。
ステップ3	・実習の写真や動画を見て発表することで、友達の取り組みに興味をもってみようとする ことができた。

令和7年

国語	
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から報告をしたり、援助要求をしたりする場面が出てきた。 ・課題ができたなら好きなカードを渡し賞賛することで、前向きに学習に取り組もうとする様子が見られた。 ・休日の出来事を、コミュニケーションブックを使って伝えようとするようになった。 ・教師の肩をたたいて「ください」と欲しい物を要求することができてきた。 ・伝えようとする意欲が育ち、欲しい物を発声で伝えようとする様子が見られるようになった。 ・学習場面で教員に答えを教えてほしい時に視線を向けてくるなど相手に意識が向くようになってきた。 ・様々な場面で名前を呼ばれると丸マツに自分から立とうとすることができた。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> ・友達を意識してまねをしようしたり、自分から正解ボタンを押そうとするなど、友達や大人と関わりながら意欲的に活動に参加しようとする姿が見られるようになった。 ・日常生活の中で、友達に「ただいま」「おかえり」と自分から伝える姿が見られるようになった。 ・ペアの友達を意識して、一緒に課題を達成させようとする事ができた。 ・移動教室の体験を通して、自分の楽しかったことを選択肢から選んで文章を作る様子が見られた。 ・2～3人のグループでの話し合いの際に、友達から出た意見に対して「いいね」などの反応が出て来るようになった。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見に対して、相手を傷つけないように伝えようとしていた。 ・様々な意見が出る中で、読み手の解釈など多角的に考えようとする様子が見られるようになった。
職業	
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> ・職業で取り組んできたことが日常生活、給食配膳、作業学習などでも作業効率を意識する様子が見られるようになった。 ・大人との相談の中で、助言を受け入れることができた。

4 成果と課題

3年間の取り組みを行ったことで、授業をより良くするための協議が進んでいき、多くのアイデアや実践例を交えながら授業改善案を出していくことができるようになりました。このことが、全教員の授業に対する意識を変えていくことに繋がっており、学校全体の授業力が向上したと考えます。成果物は以下の通りです。

- ・本校における個別最適な学びと協働的な学び 令和5年版
- ・小学部中学部高等部「目指す姿」の作成 令和7年版
- ・授業改善と実践の蓄積→20事例
- ・「授業づくりのコツ」の作成

- ・「本校における協働的な学びのステップ」の作成 R7 版
- ・実践から見えてきた「個別最適な学びと協働的な学びの授業づくりのヒント」の作成 R7版
- ・3年間の研究を受けて、授業実践振り返りシートの蓄積→200 事例
- ・教材データの蓄積→400 点

3年間の成果として授業改善の視点では、個別最適な学びとして取り組んだ個々への配慮や手立てが自立活動をベースにした授業であることを理解できるようになりました。そして、協働的な学びの観点として、「伝え合い学び合う」ための「しかけ」を設定することで、知識・技能の一方的な授業ではなく、学び方に注目をし、思考・判断・表現を意識した授業展開ができるようになりました。それに伴い、昨年協議の記録と比較して思考・判断・表現の評価、また児童・生徒ができるようになったことのエピソードが大幅に増えました。

これらは、継続して同じ視点での協議を重ねてきたことで、より良い案がでてくることを全教員が実感することができ、学校全体の授業力の向上に繋がったと考えます。

また12年間の視点では、「単元事例一覧」を基に学習指導要領の段階や領域内容を意識することができたこと、研究協議会を通して小学部、中学部、高等部の実践を見合う機会を作ることで12年間の学びを考えることができたこと、さらに学部ごとの「目指す姿」について毎年協議をすることで小学部、中学部、高等部の指導の繋がりを意識できるようになったと言えます。

個別最適な学びの観点として支援方法などの自立活動を意識した工夫や手立てを準備すること、協働的な学びの観点として「しかけ」を意識することで思考・判断・表現などの児童生徒が“できるようになったこと”のエピソードが大幅に増えたこと、これらは個別最適な学びと協働的な学びを往還することで一体的に充実した授業実践に取り組み「伝え合い学び合う」児童・生徒の育成が実現したと言えます。

今後の課題

- ・自立活動を意識した教科指導について教育活動全般を通して、今後も続けて取り組む必要がある。
- ・思考、判断、表現などの「しかけ」を意図的に設定した授業実践に取り組んでいく。
- ・カリキュラムマネジメントの視点から、それぞれの教科ごとに系統的な年間授業内容一覧の作成を進めていく。

以上の成果と課題を受け、本校がより一層充実した教育を提供できるように次の研究テーマへ繋げ、取り組んでいきます。

5 資料

<p>知識・技能</p>	<p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数や読み書きの基礎を身に付ける ・生活に必要な言葉を理解する（名詞、動作語、挨拶） <p>【日常生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着替え排せつなどの身辺処理ができる ・食具を使って食事ができる <p>【集団参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注目して話を聞く <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の軸を作る（体幹） ・手や体を沢山使う活動ができる ・自他の区別ができる ・目的地を理解して教室移動ができる（一人通学へ）
<p>思考・判断・表現</p>	<p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える手段を身に付ける（言葉、サイン、カードなど） ・助けてほしいという援助要求ができる ・困っていることや要求、報告などの意思表示ができる ・自分から周りに発信する ・拒否が正しくできる <p>【興味・関心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな事や物を見付ける、増やす <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己選択、自己決定（部分的・意図的） ・選択肢の中から選ぶことができる
<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>【他者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人でできることを増やす（教師の支援を少なく） ・いろいろな人と一緒に活動する（担任から様々な大人や友達へ） ・苦手なことも教師と一緒に活動できる ・褒められることを励みにできる ・活動に見通しをもち、落ち着いて過ごすことができる <p>【学習に向かう姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後まで活動をやりとげる ・修正を受け入れられる ・自分でやってみようという気持ちをもつ

<p>知識・技能</p>	<p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み書きができる ・数の理解（日常の中で数を意識するようにする） <p>【日常生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは自分でやろうとする ・挨拶や返事ができる ・身だしなみを整えることができる ・短い見通しの中で時間を意識しようとする事ができる <p>【集団参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを理解し守ることができる <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決められた場所に安全に移動ができる（一人通学へ） ・自分で傘をさして歩ける
<p>思考・判断・表現</p>	<p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告、相談ができる ・自分からすすんで伝えようとする事ができる ・自分の気持ちや考えを伝えようとする事ができる <p>【興味・関心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな事の幅を広げる <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イレギュラーな事を理解し受け入れる ・自己選択、自己決定
<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>【他者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援する人を選ばない（いつでもどこでもだれとでも） ・支援を嫌がらずに受け入れる ・課題や活動に前向きに取り組める ・気持ちや感情をコントロールしようとしたり、切り替える方法がある <p>【学習に向かう姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正して最後まで授業に参加できる ・集団の中でMTに注目して活動ができる ・間違いを修正できる

<p>知識・技能</p>	<p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを日常の中で活用する（買い物、時計） ・時間を見て行動することができる ・道具やツールを使って課題を解決する ・メモができる（聞きながら書くことができる） <p>【日常生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の確立（早寝早起き、適度な運動） ・挨拶や返事を自分からできる（相手を見る） ・場面に合った服装や言葉使い ・自立自立へ向けた行動（自分のことは自分で、手伝い、買い物） <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の活動や時間を意識して自分から移動ができる ・校内外で安全に移動する
<p>思考・判断・表現</p>	<p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや状況などを適切に伝えることができる ・体調がわるいことを伝えることができる ・困っていることを伝える <p>【興味・関心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きなことや活動に、自分から取り組む ・自分の好きな余暇の過ごし方がある <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって取り組んだり、発表する ・自己選択、自己決定 ・途中で活動を終えることができる ・ルールやマナーを守り、自分で考えて行動する ・自分の苦手なことが分かる ・SNSなどのルールを知り、情報コントロールができる
<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>【他者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力して取り組むことができる ・助言や支援を受け入れて修正ができる ・課題や活動に前向きに取り組める <p>【学習に向かう姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな集団の中で一斉指示を理解して活動する

赤字 追加

青字 同意見多数

網掛け 他学部から

個別最適な学びと協働的な学び

個別最適な学び	協働的な学び
<p>【認知】</p> <ul style="list-style-type: none">・個別教材・プリント学習・タブレット端末を利用した学習・漢字検定など <p>【日常生活】</p> <ul style="list-style-type: none">・着替え、荷物整理・排せつ・食事・通学指導 <p>【自立活動】</p> <ul style="list-style-type: none">・体の取り組み・手指を用いる課題・好きな感覚の利用と表出・コミュニケーション手段の確立 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none">・能力に適した進路の選択・働く場面に合わせた技能の習得	<p>【役割】</p> <ul style="list-style-type: none">・役割を設定した活動(司会進行など)・共同制作 <p>【伝える】</p> <ul style="list-style-type: none">・発表・伝え合う(コミュニケーション) <p>【相互交渉】</p> <ul style="list-style-type: none">・順番・友達と一緒に活動・ルールのある活動(勝ち負けなど)・インタビュー、クイズ、ゲームなど <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・他者の答えと一緒に確認する・動画などで振り返りをし、共有する・友達からヒントをもらったり、話し合っって答えを出す学習・チームで答えを出す学習・友達の発表や活動を、他の児童が評価する

対象ケース： 学部 年

※ピンクを事前記入

学部ごとの目指す姿

目指す姿	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
------	--

実態把握	アセスメント
対象ケースの実態	

目指す姿を達成するために必要な自立活動の項目の選定 【個別最適な学びの観点】

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
実態						
区分 27 項目	<input type="checkbox"/> (1) 生活のリズムや生活習慣の形成	<input type="checkbox"/> (1) 情緒の安定	<input type="checkbox"/> (1) 他者とのかかわりの基礎	<input type="checkbox"/> (1) 保有する感覚の活用	<input type="checkbox"/> (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能	<input type="checkbox"/> (1) コミュニケーションの基礎的能力
	<input type="checkbox"/> (2) 病気の状態の理解と生活管理	<input type="checkbox"/> (2) 状況の理解と変化への対応	<input type="checkbox"/> (2) 他者の意図や感情の理解	<input type="checkbox"/> (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応	<input type="checkbox"/> (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段	<input type="checkbox"/> (2) 言語の受容と表出
	<input type="checkbox"/> (3) 身体各部の状態の理解と生活環境の調整	<input type="checkbox"/> (3) 障害による学習上生活上の困難…	<input type="checkbox"/> (3) 自己の理解と行動の調整	<input type="checkbox"/> (3) 感覚の補助及び代行手段の活用	<input type="checkbox"/> (3) 日常生活に必要な基本動作	<input type="checkbox"/> (3) 言語の形成と活用
	<input type="checkbox"/> (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整		<input type="checkbox"/> (4) 集団への参加の基礎	<input type="checkbox"/> (4) 感覚を総合的に活用した周囲の…	<input type="checkbox"/> (4) 身体の移動能力	<input type="checkbox"/> (4) コミュニケーション手段の選択と活用
	<input type="checkbox"/> (5) 健康状態の維持・改善			<input type="checkbox"/> (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	<input type="checkbox"/> (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	<input type="checkbox"/> (5) 状況に応じたコミュニケーション

項目を関連付けた具体的な指導内容	①	②
------------------	---	---

国語、算数、数学の単元目標

【 】	
学習指導要領の位置づけ（単元事例一覧より）	本時の時数



授業名



協働的な学びのステップ（昨年度作成資料より）

ステップ



教科の中で「伝え合い学び合う」しかけ(協働的な学びの観点)

伝え合い（やり取り、コミュニケーション場面の設定）	
改善前	改善後
学び合う（思考・判断・表現する場面の設定）	
改善前	改善後

取り入れた ICT 教材

--



本時の展開（改善前）

※青を研究部が記録

活動 1		
ねらい		評価
知識技能		
思考判断表現		
学びに向かう人間性等		
対象児の手立て・配慮（自立活動のポイント）→個別最適な学びの観点		
ポイント 1	手立て配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	
ポイント 2	手立て配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	

改善や協議のポイント（協議の際に記入）		
教材	支援方法	環境
他者との関わりについての協議 【協働的な学びの観点】		
その他の記録		
活動2		
ねらい		評価
知識技能		
思考判断表現		
学びに向かう人間性等		
対象児の手立て・配慮（自立活動のポイント）→個別最適な学びの観点		
ポイント1	手立て配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	
ポイント2	手立て配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	
改善や協議のポイント（協議の際に記入）		
教材	支援方法	環境
他者との関わりについての協議 【協働的な学びの観点】		
その他の記録		

※ねらいに対して評価を○（8割以上達成）、△（5～7割達成）、×（達成できない）で記入する
 ※活動内容の項目は増やしてよい



授業名



本時の展開（改善後）

※青を研究部が記録

活動 1		
ねらい		評価
知識技能		
思考判断表現		
学びに向かう人間性等		
対象児の手立て・配慮（自立活動のポイント）→個別最適な学びの観点		
ポイント 1	手立て配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	
ポイント 2	手立て配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	
協議を受けて改善したこと		
教材	支援方法	環境
他者との関わり		
協議の記録 など		
活動 2		
ねらい		評価
知識技能		
思考判断表現		
学びに向かう人間性等		
対象児の手立て・配慮（自立活動のポイント）→個別最適な学びの観点		
ポイント 1	手立て配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	
ポイント 2	手立て配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	

協議を受けて改善したこと		
教材	支援方法	環境
他者との関わり		
協議の記録 など		

※ねらいに対して評価を○（8割以上達成）、△（5～7割達成）、×（達成できない）で記入する



伝え合い学び合う（やりとり場面や、思考する場面）エピソード ※学習全体への配慮事項※

獲得した確かな学び（※改善後記入）



知識技能	思考判断表現	主体的に学びに向かう態度

目指す姿の実現に向けた次のステップ

（※改善後記入）

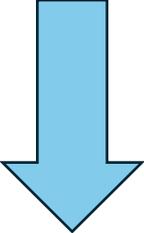
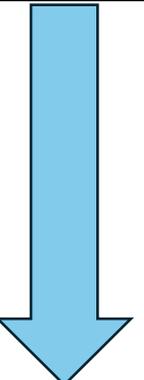


--



目指す姿の実現へ！

授業づくりのコツ～個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業～

1 実態把握						
	<input type="checkbox"/>	アセスメントの結果などを確認する。				
	<input type="checkbox"/>	個々やグループの指導の中で特に課題となることや、配慮が必要な点などを整理する。				
2 自立活動の課題と目標 ※特に配慮が必要な児童生徒についてなど、個別に作成						
	<input type="checkbox"/>	6区分27項目のどの部分が課題となるか確認する。(以下記入)				
	<input type="checkbox"/>	自立活動の目標を設定する。(以下記入)				
	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
実態						
6 区 分 27 項 目	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自立活動の 目標	①			②		
3 単元目標の設定						
	<input type="checkbox"/>	教科名（合わせた指導の場合関連する教科名）				
	<input type="checkbox"/>	単元の目標				
	<input type="checkbox"/>	学習指導要領の位置付け（段階・領域内容）				
	<input type="checkbox"/>	単元計画や授業時間				

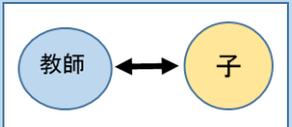
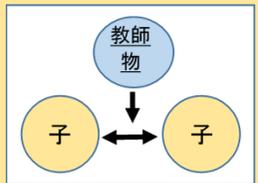
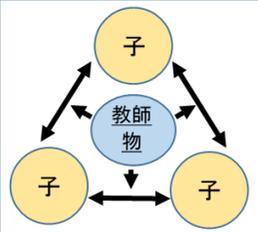
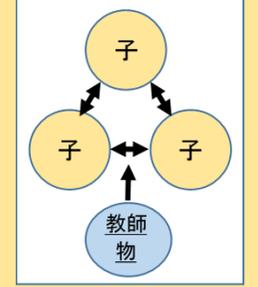
4 協働的な学びのしかけ	
	<input type="checkbox"/> 協働的な学びのステップ（どの段階に該当するか以下に○）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ステップ1・身近な大人(担任)</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ステップ2・友達(ペア～3人)</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ステップ3・友達(小グループ)</p> </div>	
	<input type="checkbox"/> 活動の中に組み込む「しかけ」の設定を考える。 ・役割の設定 ・相互交渉場面の設定 ・型の導入 ・発問や発表場面の設定
5 活動の設定	
	<input type="checkbox"/> 活動ごとにねらいを3つ程度立てる。(3観点) ・ ・ ・
	<input type="checkbox"/> ねらいを達成させるために、どんな手だてや配慮が必要か。 (自立活動の区分で考える。)
6 指導方法の工夫	
	<input type="checkbox"/> 教材の工夫は？(集団全体と個別の工夫)
	<input type="checkbox"/> 支援方法の工夫は？(一斉指示で取り組めるか、順番に活動するのか、その場合の参加の工夫、役割の設定、発問計画、即時評価の方法、まとめや振り返りの設定)
	<input type="checkbox"/> 環境の工夫は？集中できるような座席配置、他者を意識できるような配置、児童・生徒の関係性など、教材の提示や活動場所の工夫。
	<input type="checkbox"/> 協働的な学びの工夫は？「しかけ」をどのように授業の中に組み込んだか。発表の形式や、型の導入、しかけの設定など。
	<input type="checkbox"/> ICT の活用
7 評価・改善	
	<input type="checkbox"/> ねらいに対して(○80%以上達成、△50～80%、×50%以下)で評価する。
	<input type="checkbox"/> 協働的な学びの場面のエピソードなどを記録する。
	<input type="checkbox"/> 上記1から順番に難しかった部分などを改善し授業を再度実施する。

※本校研究会で使用している「授業シート」を基に作成した。

協働的な学びのステップ（R6、R7）

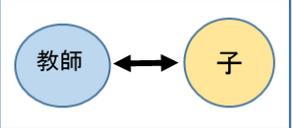
※どのステップにも、意図的な設定・型の導入・適切な教師の介入が必須

	協働的な学びの段階 ※協働の前段階 対-物		活動名	意識した自立活動の区分
	対-大人	対-子供	※R6 実践から	
ステップ 1	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; background-color: #fce4ec;"> <p style="margin: 0;">身近な大人(担任) ※人に従って活動 ※二項関係から三項関係</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">教師 物</div> <div style="font-size: 2em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">子</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">教師</div> <div style="font-size: 1.5em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">子</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">教師</div> <div style="font-size: 1.5em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">物</div> <div style="font-size: 1.5em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">子</div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; font-size: 0.9em;"> ・他者の存在に気付く ・一方的な要求をする ・簡単なやり取り （言葉、動作、模倣など） </div>		<p>「ピザをつくろう」（小1・国語）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵カードやサインなどで要求を伝えるように設定する。 ・口形模倣や音声を手掛かりに、発声場面を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・環境の把握
			<p>「あおむしに食べ物をあげよう」（小3・国語）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりたい活動を教師に伝える。 ・台詞やサインを取り入れることで、友達の活動に注目できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の把握 ・人間関係の形成
			<p>「いろいろな動物を知ろう」（小4・国語）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かして」「どうぞ」と伝える。 ・活動ができたならハイタッチをする。 ・伝えたい友達に「おいで」と声を掛けたり、写真カードで選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・人間関係の形成 ・環境の把握 ・コミュニケーション
			<p>「ポケットぼん」（小4・国語）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視線を合わせて手を挙げてから名前を呼ぶ。 ・友達の顔写真を、教師と一緒に確認してから渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・人間関係の形成 ・心理的な安定
			<p>「職業について知ろう」（中1・職業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめでタブレットを用い、お互いに共有できるようにする。 ・挨拶リレーで友達に注目しやすい座席配置にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・人間関係の形成 ・環境の把握
			<p>「軽作業に取り組もう」（高1・職業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶練習をする。 ・作業が終わったら報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・人間関係の形成

ステップ 2 ①	<p>集団の中で 他の大人と ※決まりに従って 活動</p>  <p>教師 ↔ 子</p>	<p>クラスの友達 (ペア)</p>  <p>教師物 ↓ 子 ↔ 子</p>	<p>「ももたろう」(小3・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ください」「どうぞ」「ありがとう」のやり取りをする。 ・ジェスチャーや鳴き声で役割を表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・人間関係の形成
			<p>「てぶくろ」(小2・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セリフを決めてやり取りのパターンを繰り返し取り組む。 ・児童に応じて役割を設定する。(花丸ボタンを押す) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 ・コミュニケーション
			<p>「話を聞こう」(小4・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人で協力して文字や文章を完成させる。 ・一緒に活動したい友達を写真カードから選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 ・環境の把握
			<p>「文章を聞いて、話を読み取ろう」(中2・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を発表したり、質問をする場面を作る。 ・文章に合うイラストのスライドをつなげて、全員で内容を読み取れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・人間関係の形成
ステップ 2 ②	<p>別の考えの人がいることに気付く (順番を待つなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に行動する経験、相手に合わせる、要求する ・設定場面でのやり取り、相互の模倣等 ・自然発生的なやり取り、相互の模倣、参照 	<p>クラスの友達 (3~4人)</p>  <p>子 ↙ ↘ 教師物 ↓ 子 ↔ 子</p>  <p>子 ↙ ↘ 子 ↔ 子 ↑ 教師物</p>	<p>「助詞を使って文を作ろう」(小6・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援シートを活用して自分の考えを教師に伝える。 ・わからない時は教師や友達に聞いたり、一緒に考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の把握 ・コミュニケーション
			<p>「いつどこだれなにををする」(中2・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの前で書いた文章を発表する。 ・「よい発表の仕方」で「ゆっくり話す」など観点を明確にして他者評価しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 ・コミュニケーション
			<p>「検索名人になろう」(高2・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と共通のテーマで検索ワードを考え発表し合う。 ・友達の発表を評価し、実際に良いと思った言葉で検索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・人間関係の形成 ・コミュニケーション
			<p>「俳句」(高3・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像や音でイメージを膨らませ、意見や感想を出しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション
		<p>「働くことについて知ろう」(中3・職業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞いて、次に取り組みたい仕事を選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 ・コミュニケーション ・環境の把握 	

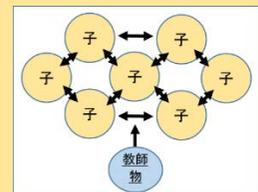
やり取り(言葉、動作、模倣など)
模倣については粗大、微細
→作業模倣へ

**他の大人
(学年以外の教師)**



・課題解決のための、自発的なやり取り、
模倣、参照
→適切な社会的参照
(場に応じたふるまいなど)

**クラスの友達
(小グループ
8名程度)**



<p>「ふわふわ言葉」(中1・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達でお題を考えて、自分事として考えられるようにする。 ・自分の考えをワークシートに書いた後に、発表をしたり意見を聞いたり考えたりできるようにする。 ・2～3人で話し合う→全体で発表の形にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・コミュニケーション ・人間関係の形成
<p>「春に」(高2・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読むパートの分担を話し合いで決める。 ・歌詞スライドを発表し、感想を言い合う。 ・詩を読んで情景を思い浮かべてスライドを作成する。 ・学習している動画を振り返り発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 ・環境の把握
<p>「現代詩を書こう」(高2・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小グループで話し合い、題材を決める。 ・自分で調べたことを発表する。 ・友達の発表を聞き、良かったところや分からないことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 ・コミュニケーション ・心理的な安定
<p>「実習と職業のつながり」(高2・職業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習激励会で先輩に質問をする ・進路について不安や悩みをワークシートに書く。発表・共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・心理的な安定
<p>「実習に向けて」(高3・職業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさ、スピードに気を付けて発表するようにする。 ・友達の良いところ、改善した方が良いところに注目する。 ・メモしたことを、確認したり実行したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成
<p>「通勤時に気を付けること」(高2・職業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイを実施し、評価し合う。 ・やってみたい職種を考え発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 ・環境の把握 ・心理的な安定

《国語》 段階ごとの単元事例一覧

項目・内容	小学部 1段階	小学部 2段階	小学部 3段階	中学部 1段階	中学部 2段階	高等部 1段階	高等部 2段階
言葉の働き (語彙)	【いろいろな言葉】 ※日常生活に必要な挨拶、物の名前、動作などの言葉等	【いろいろな言葉】 ※生活の中の言葉、名詞と動詞、形容詞、感情、いろいろな挨拶等	【いろいろな言葉】 ※促音長音のある語句、平仮名、片仮名、身近な漢字の正しい読み方。仲間分け、似た意味の言葉、反対言葉等	【言葉を広げよう】 ※長音、拗音、促音、撥音助詞、同音異義語、属性言葉、同義語、対義語等	【言葉を広げよう】 ※様子や行動、気持ち、性格を表す言葉 修飾と被修飾「です。ます」	【言葉を豊かに】 ※様子や行動、気持ち、性格を表す語句の広がり、名詞、動詞、形容詞、主語、述語修飾語のまとめ	【言葉を豊かに】 ※「だから、しかし」等情報と情報との関係を表す語句「考える、だろう」叙述で使われる言葉の活用。
書くこと (文字) ※特記事項参照	【書いてみよう】 ※ぬりえ、グルグル書き、意味づけ等 文字の気づき	【運筆に親しもう】 ※運筆(なぞり書き、視写)簡単な平仮名姿勢と筆記具の持ち方	【平仮名、片仮名を書こう】 ※ひらがな、カタカナ文字、補助線なぞり、自分の名前、単語の書き、簡単な漢字の導入等	【身近な漢字を書こう】 ※名前、学校生活の中の漢字、漢数字、曜日、日常生活の中の漢字等	【生活に必要な漢字を書こう】 ※身の回りで見る漢字、	【送り仮名等に気を付けよう】 ※漢字と仮名の使い分け、送り仮名、仮名遣い、句読点の役割、漢字の組み立	【漢字と仮名を使い分けよう】 ※文や文章の中で書き慣れていく。
(書写)			【姿勢や持ち方に気を付けて】 姿勢や筆記具の持ち方を正しく平仮名や片仮名の文字の形に注意して丁寧に書く。	【漢字の形に注意して書こう】 平仮名、片仮名、身近な漢字の形を整えて丁寧に書く。点画相互のバランスに気を付ける	【漢字の筆順に注意して書こう】 ※筆順の決まり「上一下」等	【文字を整えて書こう】 ※手紙や書類などの文の文字	【目的や形式に合わせて書こう】 ※手紙や書類などの文や余白のバランス等
伝え合う (伝える)	【返事をしてみよう】 ※呼名等の返事。挨拶、音声模倣・動作等自分なりの表現等	【学校で話そう】 ※朝の会/帰りの会での司会、発表。給食の挨拶、日常の挨拶 簡単な質問と応答	【身近な人と話そう】 ※朝の会の司会、帰りの会での今日の出来事発表等	【身近な人に伝えよう】 ※朝の会の司会、帰りの会での今日の出来事発表。自己紹介、日常の挨拶、買い物場面、外食場面、図書館利用、電話のかけ方等	【思いや考えを伝えよう】 ※今日の出来事発表。自己紹介、学校紹介、スピーチ活動、丁寧な挨拶 買い物、病院などでのやり取り、電話の対応等	【場面に応じた伝え方を知ろう】 ※現場実習先や初めて会う人に対する自己紹介、面接場面 報告や連絡場面、挨拶、お店、病院、手続き等日常生活の中でのやり取り等	【場面を考えて伝えよう】 ※現場実習先や初めて会う人に対する自己紹介、面接場面呼び掛け、依頼の仕方、報告や連絡場面、挨拶、お店、病院、手続き等日常生活の中でのやり取り等
(聞き取る)	【はい、どうぞ】 ※頂戴のやりとり 事物の言葉の一致		【人に聞いてみよう話してみよう】 ※電話のかけ方、買い物場面、病院の問診	【話のあらましを聞き取ろう】 ※集会活動、行事の予定等	【内容に心をこめて聞き取ろう】 ※集会活動、行事の予定、校内放送、ラジオなど	【話の内容を的確に聞き取ろう】 ※5W1H 様々な集会活動、社会見学での案内、説明会、校内放送、電話メモを取る、メモを振り返る等	【話の要点を整理して聞き取ろう】 ※社会見学、職場見学、説明会、職場実習での指示、電話、インタビュー、伝言、メモの活用
(発表する)	【おなじを見つけよう】 ※物の受け渡し(○をちょうだい)マッチングゲーム 手遊び 歌遊び	【話をよく聞こう】 身近な人の簡単な指示や説明を聞き、応じた行動をする。 ※朝の会の今日の予定の話、3語から4語で構成する文による指示や説明		【身近な人にインタビューをしよう。発表しよう】 ※身近な教師、家族、友人へ行事の事、授業の事、好きなスポーツの事インタビューをして、まとめ、発表する。	【インタビューをしよう。発表しよう】 ※主事さんや養護教諭へのお仕事インタビュー、高校生に高校生活のインタビュー等	【新聞を作ろう】 ※学級新聞、修学旅行新聞、部活や委員会の新聞等)	【調べて発表しよう】 ※修学旅行、世界の国について、夢の自動車提案等
(話し合う)			【出来事を発表しよう】 ※一日の出来事、遠足など経験したこと発表	【伝えたいことを決めて発表しよう】 ※自分の夢発表、作文発表、本の感想発表等	【役割を決めて話し合おう】 ※学習発表会の事、係の仕事決め、リクエスト給食の献立等	【話し合って考えをまとめよう】 ※遠足の計画等	【計画的な話し合いをしよう】 ※遠足の計画、文化祭の出し物。卒業文集の内容等
文で伝える	【選んでみよう】 ※事物の選択(具体物、絵カード、写真等) 給食で食べたいもの、休みの思い出、買い物学習で買いたいもの等	【経験したことを話そう】 ※遠足で楽しかったこと、休みの思い出、一日の振り返り等	【絵日記や作文を書こう】 ※今日の出来事、行事の事、休みの思い出等の絵日記や作文等	【伝わりやすい文を書こう】 ※作文、日記、手紙、壁新聞、卒業生へのお祝い言葉、文集等	【伝えたいことを明確にして文を書こう】 ※作文、日記、葉書文、手紙、招待状、壁新聞、文集等	【目的に合わせて書いてみよう】 ※作文、日誌、葉書文、実習先へのお礼状、報告書、履歴書、文集等	【目的や状況に合わせて書いてみよう】 ※作文、日誌、葉書文、実習先へのお礼状、文集等
実用書類 定型文等の 書き方	学習指導要領では触れていないが☆本にある。 3段階への導入部分と推測または、中学部、高等部で扱えるか。 ここに載せるか検討	【文を書いてみよう】 【絵に文をつけよう】 絵(写真)に短い文をつける。 【カードを書こう】 誕生カードなど定型文をなぞったり書いたりする。 【手紙】 一文の手紙		【挨拶状を書こう】 ※年賀状、暑中見舞い、招待状		高1段階では、敢えて書類等の書き方に分けていない。目的にあった書き方に触れたうえで2段階で実際に活用できるようにする。	【書類等の書き方】 ※季節のはがき、実習先のお礼状、挨拶状、便箋縦書き、便箋横書き、履歴書、書写、文集、横断幕、ポスター等
読む (文学)	【お話を楽しもう】 ※絵や写真等の多い絵本(昔話)繰り返しやリズムのある話、登場人物の動きの模倣	【お話を聞こう】 ※絵や写真に文字が添えられた絵本(昔話)、場面や登場人物が分かりやすい話、時間の経過が分かる話、言葉の響きやリズムがある話、劇化等	【お話を読もう】 ※絵本、易しい読み物、ページサートを作って劇化、音読等	【読み物を読んでみよう】 ※簡単な物語、紀行文、詩、短い劇の脚本、音読等	【様々な読み物を読んでみよう】 ※物語、詩、短い劇の脚本、紀行文、記録や報道の文章、詩、音読等	【登場人物の変化を読み取ろう】 ※物語、小説、随筆、詩、音読	【物語の魅力を感じよう】 ※物語、小説、随筆、詩、音読、朗読
(表現・音読)	【言葉のリズムを楽しもう】 ※手遊び 動作の模倣、くすぐりあそび うたあそび わらべ歌等	【劇あそびをしよう】 ※紙芝居、ページサート、劇化等	【演じてみよう】 ※ページサート、劇化等	【話のまとまりで音読しよう】 ※詩、台詞、俳句の音読等	【内容を考えて音読しよう】 ※詩、台詞、短歌、俳句 様々な文章	【文章の構成を考えて音読しよう】 ※様々な文章	
(伝統文化)		【昔話や童謡に触れよう】 ※言葉の響きやリズムがある昔話、遊びややりとりのある童謡、わらべ歌等	【昔話を聞こう】 ※昔話、神話、伝承等言葉やリズムに親しめる話	【日本の言語文化を知ろう】 ※俳句 江戸小話、音読等	【日本の言語文化に親しもう】 ※短歌(百人一首、季節)俳句、その音読、ことわざ、雑語	【ことわざ、慣用語を学ぼう、使ってみよう】 ※ことわざ、慣用語	【古文に親しもう】 ※古文、その音読、故事成語、慣用語
(説明文)		学習指導要領では触れていないが☆本にある。 中1段階への導入部分と推測	【説明する文を読もう】 ※身近な物の短い説明文	【説明文を読んで作ろう】 ※簡単な工作や料理の作り方。道具の使用法	【説明文の意味を読み取ろう】 ※工作品作りや料理の説明書、注意書き、薬の飲み方、日常生活における様々な説明書を読み理解し、危険がないよう行動する等	【文章から必要な情報を見つけよう】 ※伝記、観察記録文、紀行文、旅行等の諸案内、趣味の工作や料理の作り方等	【説明文から情報を得よう】 ※用具や器具・情報機器・医薬品の取扱説明書、利用書、商品の紹介、指示書、納品書、請求書、領収書。広報、回覧板等
(暮らしの中の記号や標識)	【場所や決まりのある印】 ※場所や動作を表す絵や写真、日常のシンボルマーク、「○」「×」「→」等	【標識を探そう】 ※教室内の表示、校内でのシンボルマーク、信号等	【看板を読もう】 ※学校の中に貼ってある標語、きまり、立て札、ルールの標識等	【社会生活と言葉】 ※交通機関や病院の表示、領収書。新聞記事、電子メール等			
読書活動 (図書室の活用)	【本はともだち】 ※読み聞かせ、いろいろな絵本	【本はともだち】 ※読み聞かせ、拾い読み、いろいろな絵本、図鑑、掛図等	【本をさがそう】 ※読み聞かせ、読書、いろいろな絵本、図鑑等	【本に親しもう】 ※読書、挿絵が少なくなったり文章が中心の本、物語、昔話、詩、紀行文、短い劇の脚本、図鑑、雑誌等	【いろいろな読み物を読もう】 ※物語、昔話、伝承、絵本、科学的な読み物、詩、紀行文、短い劇の脚本、図鑑、新聞、雑誌、電子メール等	【幅広く読み物を読もう】 ※小説、詩、新聞、雑誌、歴史小説、伝記、観察記録文、紀行文、料理や工作の作り方、趣味の本 等	【日常的に読書に親しもう】 主体的、継続的に進んで読書を行う。自分の考えを広げ、書き手の多様な物の見方に触れ
					学習指導要領には載っていない。ただ、高等部の国語の本では扱っており、内容としては【知・技】(A)にあたり、必要と思われる。	【辞書の使い方】 ※国語辞典、漢字辞典 タブレット端末、電子辞書等	【いろいろな通信文】 ※手紙、葉書、電話、FAX 携帯電話、メール等)

《算数・数学》 段階ごとの単元事例一覧

項目・内容	小学部 1段階	小学部 2段階	小学部 3段階	中学部 1段階	中学部 2段階	高等部 1段階	高等部 2段階
数量の基礎	<p>【よく見てみよう】 * 気付く、指差し、注視、触れる、取り上げる。 * くるくるチャイム等</p> <p>【動かしてみよう】 * 一対一対応、絵カードの組み合わせ（分割、同類）、物のマッチング等</p>						
数と計算	<p>【ある、ない？】 * ものかくし、チェーン抜き、具体物配り等</p> <p>【数えてみよう】 * 数唱、数字のうた、具体物の取り出し等</p>	<p>【10までの数】 * どんぐり拾い、果物野菜収穫遊び、魚釣り、数カードの分類等</p> <p>【くらべてみよう】 * 同じ、多い・少ない、買い物遊び等</p> <p>【なんばんめ】 * 並んでみよう、何番目、数字カード並べ等</p> <p>【合わせてみよう・分けてみよう】 * 合成・分解パズル等</p>	<p>【20までの数】 * 数字つなぎ、助数詞の表現</p> <p>【100までの数】 * 数字つなぎ、100段そろばん等</p> <p>【数えてみよう、分けてみよう】 * プリント配り、具体物の操作等</p> <p>【たし算・ひき算】 * 計算（リンゴやミカンなどの具体物を使って）、具体物の操作を式に表す等</p>	<p>【1000までの数】 * 数直線、お金の換算等</p> <p>【計算しよう】 * お金の計算・換算、百の位への繰り上がり・繰り下がりが無い加法・減法、電卓計算等</p> <p>【かけ算】 * かけ算九九と活用等</p>	<p>【整数の表し方】 * 数の変換、数の比較等</p> <p>【計算しよう】 * お金の計算、電卓の計算等</p> <p>【かけ算の活用】 * 乗法の計算、的あてゲーム等</p> <p>【割り算】 * 具体物の操作、除法の計算等</p> <p>【小数・分数】 * 具体例（靴のサイズ、体重）、折り紙、計量等</p>	<p>【整数の表し方】 * 重さの換算等</p> <p>【整数・小数の表し方】 * 数の換算、計算の工夫等</p> <p>【概数】 * 人口の概算、買い物の概算等</p> <p>【計算しよう】 * ができる。計算を活用する。 * 計算の工夫等</p> <p>【整数の乗法】 * 計算の工夫等</p> <p>【整数の除法】 * 計算の工夫、基準量・比較量等</p> <p>【小数の計算】 * 小数の計算、計算の工夫等</p> <p>【小数の乗法と除法】 * 小数の乗法・除法の計算等</p> <p>【分数とその計算】 * ケーキの分配・加法・減法等</p> <p>【数量の関係を表す式】 * 記号を使った式、表作り等</p> <p>【計算に関して成り立つ性質】 * 交換法則、分配法則、結合法則等</p>	<p>【整数の性質】 * 偶数・奇数、公約数・公倍数等</p> <p>【分数】 * 分数と整数・小数の表現、約分・通分等</p> <p>【分数の加法、減法】 * 分数の加法・減法等</p> <p>【分数の乗法、除法】 * 分数の乗法・除法等</p> <p>【数量の関係を表す式】 * $a \cdot x$ を使った式等</p>
図形	<p>【いろいろな形を探してみよう】 * \triangle、\squareの型はめ、マッチング等</p> <p>【あわせてみよう】 * マッチング、線結び等。</p> <p>【なかまあつめ】 * 具体物の分類等。</p> <p>* 図形領域として2段階の分類につなげていく意図をもって指導する。 * ものに直接触れたり、いろいろな方向から見たりするなど、触覚をはじめとする様々な感覚についての経験を重ねる。</p>	<p>【いろいろな形に分けてみよう】 * 色・形・具体物の分類等</p> <p>【まる、さんかく、しかく】 * \circ・\triangle・\squareの分類等</p> <p>【描いてみよう】 * 型なぞり、なぞり書き等</p>	<p>【いろいろな形を知ろう】 * 身近な形探し等</p> <p>【形を作ってみよう】 * 積み木でつくろう、色板構成・分解等</p> <p>【どこにある？】 * 何番目、物の位置の表現（「\bigcircの上」「自分から見て\bigcirc」）等</p> <p>【どっちが速い？】 * ミニカーレース、傾斜比べ等</p>	<p>【直線・頂点・角】 * 線結び、折紙等</p> <p>【いろいろな図形】 * 図形の分類、色板並べ等</p> <p>【図形をかいてみよう】 * 点結び（作図）、ひこ・色板構成、箱作り等</p>	<p>【図形をかこう】 * 作図、円による模様作り等</p> <p>【面積】 * 単位図形の操作（敷き詰める、何個分）等</p> <p>【角の大きさ】 * 角の測定（三角定規、分度器）等</p>	<p>【平面図形】 * 四角形の弁別、作図、円周率と直径、円周の長さ等</p> <p>【平面図形の面積】 * 平面図形の面積とその公式等</p> <p>【立体図形】 * 立体調べ、箱の組み立て等</p> <p>【ものの位置】 * 下駄箱の位置等</p>	<p>【縮図や拡大図】 * 縮図・拡大図、線対称・点対称等</p> <p>【概形やおおよその面積】 * 概形、おおよその面積等</p> <p>【体積】 * 体積の求め方等</p> <p>【円の面積】 * 円の面積等</p>
測定 （仮1、2、3、4段階）	<p>【同じのはどれ？】 * 具体物の分類等</p>	<p>【長さ、重さ、高さ、広さ】 * 荷物運びゲーム、大小、長短の分類等</p>	<p>【比べてみよう】 * 鉛筆の長さ比べ、何個分等</p>	<p>【測ってみよう】 * 測定、軽量、重さ比べ等</p>	<p>【変化の様子を表そう】 * 同等の個数と重さ調べ等</p>	<p>【変化の様子を表そう】 * 表作り（比例の関係）等</p>	<p>【変化と数量の関係を表そう】 * 比例と反比例</p>
変化と関係 （仮5、6、7段階）	<p>【分けてみよう】 * パネルシアター、給食配膳等。</p>	<p>【くらべてみよう】 * 長さ・重さ・高さ・広さ比べ等</p>	<p>【時刻や時間】 * 時計の読み、時程・日程の確認等</p>	<p>【時刻と時間】 * 時間の計算、何分前・何分後</p>	<p>【簡単な割合】 * 買い物の（値上げの割合比較）等</p>	<p>【速さと時間】 * 速さと時間の関係、人口密度等</p> <p>【割合】 * 割引き計算、打率、勝率等</p>	<p>【比】 * 比、ジュースの濃さ等</p>
データの活用		<p>【分けてみよう】 * 仲間集め、チャンキング等</p> <p>【数をくらべてみよう】 * 給食の配膳、プリント配布等</p> <p>【簡単な表をつくってみよう】 * 的あてゲーム等</p>	<p>【絵や図、記号で表そう】 * 天気調べ、ボーリングゲーム等</p>	<p>【表やグラフで表そう】 * 簡単なアンケート、ゲーム等</p>	<p>【表やグラフで表そう】 * 雨量・気温調べ等</p>	<p>【円グラフ、帯グラフで表そう】 * 風邪をひいている人の割合等</p> <p>【平均してみよう】 * 平均気温、平均タイム等</p>	<p>【データの収集と分析】 * 代表値、データの分析等</p> <p>【場合の数】 * 並び順、コインの裏表等</p>
数学的活動	<p>見たり、触れたりするなど視覚や触覚等で判断する経験をもつこと。具体的、実際の、行動的に対象に働きかける活動。一対一対応での分配等。</p>	<p>視覚や触覚等で判断する経験をもつことや表現すること。具体的、実際の、行動的に対象に働きかける活動の経験を基に数量や図形に働きかける活動。ものの個数を比べて多少を知るよさを味わったり、考えた結果が正しいことを確かめたりする活動。問題点と解決策について具体物を使って再現し振り返る活動。</p>	<p>自分から数量や図形に直接働きかける活動。問題状況を整理したり、明らかにしたりして解決の手掛かりを発見し、解決に役立て、解決方法が正しかったことや修正の必要性について考える活動。絵図、式などで表すなどして考えたことや解決の仕方について振り返り、そのよさを認め合う活動。</p>	<p>小学部3段階の内容に準ずる活動。</p> 	<p>身に付けた数学的な見方・考え方を働かせて対象の特徴や性質を捉えたり、対象に直接働きかけたりすることによって新たに気付いたことや分かっていたことを注意深く考察しようとするなど、目的意識を持った主体的な活動。他、中学部1段階と同じ。</p>	<p>日常生活での問題を数理的に捉え、既習事項を活用しながら解決し、日常生活に生かす活動。数学の問題に主体的に関わり、問題を見いだし、既習事項を基に考え判断し、その結果を表現したり処理したりして発展的に考察する活動。問題解決の過程や結果を図や式を用いて数学的に分かりやすく表現し伝え合う活動。</p>	<p>日常の事象を数理的に捉え、問題を見いだし、既習事項を基に解決し、振り返りを通して結果や方法を改善したり、日常生活に生かしたりする活動。数学の問題に主体的に関わり問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り統合的・発展的に考察する活動。問題解決の過程や結果を、目的に応じて図や式を用いて数学的に表現し伝え合う活動。</p>

《職業・家庭》 段階ごとの単元配列

項目・内容	小学部 1 段階 (仮 1 段階)	小学部 2 段階 (仮 2 段階)	小学部 3 段階 (仮 3 段階)	中学部 1 段階 (仮 4 段階)	中学部 2 段階 (仮 5 段階)	高等部 1 段階 (仮 6 段階)	高等部 2 段階 (仮 7 段階)
職業科 A「職業生活」	【日直になって、今日の天気を発表しよう】 ◆学級集団の中で日直を行うことで、集団の中での役割に関心をもつ。 ○朝の会の中で日直として、その日に天気を発表する。	【係の仕事に挑戦しよう】 ◆簡単な係活動について、その役割が分かり、行うことができる。 ○学級集団の中で、簡単な係活動に取り組む。	【お楽しみ会をしよう】 ◆学年や異年齢等で構成される集団の中で、それぞれが簡単な役割をもち、果たそうとすることができる。 ○お楽しみ会の中で、それぞれが役割をもって活動に参加する。	・働くことに興味を持つ ◆身近な人の働く姿を見て、働くことについての興味を持つ。 ○地域にある職場見学や卒業生の話を聞き、働いている人の様子や仕事の内容、職場での生活について調べる。 Aア(ア)イ(ア)㊦	・働く良さを知ろう ◆社会の一員として役割を果たすことの大切さを知る。 ○地域での販売会や地域貢献をする。 Aア(ア)(イ)(ウ)Cア ㊦地域の清掃をしよう	・勤労のよさを知ろう ◆自分の能力や適性を知り、仕事に励む大切さを知る。 ◆色々な進路先を知る。自分のこととして考える機会とする。 ○卒業生の進路先や先輩の実習先を中心に多様な進路先を紹介する。 Aア(ア)	・勤労の喜びを知ろう ◆自分たちが取り組んでいる生産や生育活動等が社会貢献につながることを知り、働くことの意義を知る。 ○地域で製品や作物を販売したり、作業活動を通して地域貢献したりして社会的な有用性を体験的に理解する。 Aア(ア)
(勤務の意義)							
(仕事の内容)				・働くとはどんなこと? ◆自分の将来を考える。職業とは何かを知る。 ◆はたらくことの大切さを知る。仕事の種類や仕事をするために必要な力に気づく。 ○職業の名称や仕事の内容、生産品や製品の名称、商店や会社の役割を知る。 Aア(ア)イ(ア)㊦	・自分の将来を考えよう! ◆キャリアマップを作成し、作文「自分の将来」を書いて発表する。 ◆自分の将来を考える。働くことは何かを知る。 ○自立や将来について ○キャリアマップの作成と発表(ワークシート等) Aア(ア)イ	・地域の職場を知ろう ◆地域にある農・林・水産業、工業、商業などに関わる多様な職場を知る。 ◆人々が働くことを尊重していることを理解する。 ○。 Aア(ア)イ(ア)㊦	・貢献する喜びを知ろう。 ◆生産や生育活動への意欲を高める。 ◆より良い製品や背負物、活動が求められることに気づき、工夫・改善や、自らの知識や技能を向上させようとする。 ○地域で販売会をする。 Aア(ウ)、アイ(ア)㊦
(労働条件)						・労働条件を知ろう ◆勤務時間や残業などの労働時間、賃金、年次休暇などの労働条件を知る。 ◆健康保険や雇用保険、年金などの制度を知る。 ◆資格について知る。 ○書類の見方や各制度の内容を知る。 Aイ(ア)㊦	・職業生活に必要な知識 ◆職場の組織、労働時間と報酬、職場での各種保険制度、免許や資格等、検定についての知識を深める。 ○職場の役割、労働時間と勤務時間、賃金、福利厚生、資格と給与の関係、健康保険、雇用保険、年金、資格と検定 ○給料や年金の管理、健康保険の取り扱い方。 Aイ(ア)㊦
(スキル)						・働くために必要なこと ◆高校生と社会人の言動の違いに気づく。社会人として相応しい行動を知る。 ○健康管理、みだしなみ、ビジネスマナー、電話対応、金銭管理、SSTなど。 Aイ(イ)㊦㊧ ㊦ビジネスマナー講習会	・仕事での礼儀作法について ◆仕事に向かう姿勢、気持ちの準備を知る。 ◆必要な礼儀、挨拶、言葉遣いを覚える。 ◆体験実習を振り返り、後期の現場実習につなげる。 ◆礼状の様式を知る。 ○体験実習事前学習 ○体験実習 ○体験実習事後学習 ○体験実習について知る。
(福祉サービス・相談機関)				・相談しよう ◆困ったり、悩んだりしたときは、周囲に相談できることを知る。 ○困ったり悩んだりする場面を知る。 ○各市町村の福祉課を知る Aイ(ア)㊦	・福祉サービスを知ろう ◆福祉サービス等の内容や利用方法を知ろう。 ○グループホームや移動支援、ヘルパーなどの支援を知る Aイ(ア)㊦	・社会の仕組みを知ろう ◆雇用に関する各種援助や障害者福祉サービスを知る。 ◆生活の場や生活費、生活に対する介助、日中活動の支援等の利用方法について知る ○就職に向けた相談や準備・訓練、就職活動や雇用全支援、雇用定借支援、離職転職について知る。 ○グループホーム等の利用方法や登録方法を知る。 Aイ(ア)㊦	・福祉サービス等の利用方法を知ろう ◆雇用に関する各種援助や障害者福祉サービスの利用方法を知る。 ◆各種看護制度や相談先の見学や登録をして、実際的に確認する。 ○サポートネットワーク ○就労支援センター登録会 ○福祉課訪問 Aイ(ア)㊦
(協力)	・共同作業と役割分担 ◆簡単な作業を共同で行ったり、作業に置いて分担された個人の役割を果たしたりする。 ※楽しい雰囲気の中で共同作業ができるようになる。 力役割 (ア)(イ)	・共同での作業と役割分担 ◆友達と一緒に互いに協力して楽しく作業に取り組む。 ○様々な集団の中で簡単な役割を果たしたり、友達と協力して活動や作業に取り組んだりする。 ○周囲から感謝される経験を通して、役割を果たすよさや意欲等を高める。 力役割 (ア)(イ)	・共同作業と役割分担 ◆作業分担や役割が分かり、自分から取り組んだり、役割を果たしたりする。 ○個々の児童の力が発揮できるよう、繰り返し活動に取り組める作業の機会を用意する。 力役割 (ア)(イ)	・協力して仕事をしよう(生産・生育) ◆作業全体の中で与えられた自分の仕事を最後まで成し遂げる。 ◆記録を取ることで自己の変容や成長に気づく。 ○作業工程表を用いて活動内容や終了確認をする。 ○学習記録を書く。 Aア(イ)(ウ)、Aイ(ア)㊦ ㊦園芸 作物の栽培	・協力して仕事をしよう(製作・生産・生育) ◆作業全体の中で自分の仕事の分担がわかる。 ◆他者と協働して活動する。 ○お互いの動きをみながら声を掛け合って仕事に取り組んだり、合図を送りながら協力したりして作業を行う。 Aア(イ)、Aイ(ア)㊦ ㊦園芸 作物の栽培	・協力して効率よく仕事をしよう(材料、生物の育成、生産や生育活動) ◆他者と意見交換をし、他者の意見を踏まえて自分の考えを広げたり深めたりする。 ◆必要に応じて報告や質問をすることができる。 ○。 Aア(イ)、Aイ(ア)㊦ ㊦	・協力して効率よく仕事をしよう(材料、生物の育成、生産や生育活動) ◆他者に対しての望ましい関わり方や態度についてわかる。 ◆それぞれの役割や仕事の分担を考えよう。 ○。 Aア(イ)、Aイ(ア)㊦ ㊦
(道具)	・集団参加や集団内での役割 ◆児童が人数や年齢幅が異なる集団に参加し、友達を知り一緒に活動する経験を通して、手段の中で活動することに慣れる。 力役割 (ア)(イ)	・集団の参加や集団内での役割 ◆集団活動で簡単な係活動を果たす。 力役割 (ア)(イ)	・集団参加や集団内での役割 ◆児童が積極的に様々な集団活動に参加し、活動の準備や役割を主体的に果たしていく。 ◆集団活動では、役割があることを知り、他の係を意識して活動の見通しをもって、自分にお役割を果たす。 力役割 (ア)(イ)	・道具を使ってみよう ◆用具の正しい使い方を知る。 ◆作業課題がわかり、使用する道具等の扱いに慣れる。 ◆作業の持続性や巧緻性を身に付ける。 ○道具・機械の使用法、手洗い・身支度、計量、片づけ、点検などの実践 Aイ(ア)㊦、Aイ(ア)㊦ ㊦机をつくろう	・道具を使ってみよう ◆用具・工具・農具、工作機械を安全に使用する。 ◆作業課題がわかり、使用する道具等の扱いを理解する。 ◆作業の持続性や巧緻性を身に付ける。 ◆素材や生育する生物等の保管や管理をする。 ○道具・機械の使用法、手洗い・身支度、計量、片づけ、整理整頓、点検などの実践 Aイ(ア)㊦、Aイ(ア)㊦ ㊦パンをつくろう	・道具を正しく使おう ◆作業に応じて道具や機械を使用する。(運搬、重さや長さの測定、加工、品物の梱包等) ◆道具の手入れや簡単な修理、管理ができる。 ◆作業の準備、作業活動、作業の片づけを積み重ね、安定して取り組む。 ◆状況に応じて作業をする。 ○道具を使用した作業。 ○温度や湿度に応じて身支度を整える。 Aイ(ア)㊦、Aイ(ア)㊦㊧ ㊦ ㊦木工製品をつくろう 調理をしよう 清掃をしよう	・作業に応じて道具を使ってみよう ◆工具・農具、運搬用の機器、製造機器の扱い方が分かり、効率よく、確実に使用する。 ◆道具や機械を安全に使用する。 ◆衛生面に気をつける。 ○決められた場所に運搬する、個数を数えたり並べたり束ねたりして整理する、日常的な手入れや修理ができる。 Aイ(ア)㊦、Aイ(ア)㊦ ㊦清掃をしよう
(健康管理・余暇)	・手伝いをしよう【手伝い、整理整頓、戸締まり、掃除】 ◆物を配ったり、伝言を届けたり、作業を手伝ったりする。 ◆自分の所持品の整理整頓をする。 ◆戸締まりを窓や扉の開閉、鍵の掛け開けをする。 ◆自分の出したごみを拾ったり、身の回りがあるごみを拾って捨てたりする。 ◆道具や材料の片づけ、仕事が終了したことを報告する。 キ手伝い (ア)(イ)	・手伝いをしよう【手伝い、整理整頓、戸締まり、掃除】 ◆扉や窓の開閉と同時に施錠方法を知り、どのようなときに開け、どのようなときに閉めるのかを理解する。 ◆掃除用具の名称や使い方が分かり、できるだけ一人で、簡単な掃除をする。 ◆使用した道具の片づけをする。その際には、友達からの言葉掛けでも片付けたり、友達と協力しながら片付けたりすることについて配慮する。 キ手伝い (ア)(イ)	・手伝いをしよう ◆様々な活動の手伝いをする。 ◆道具や器具に慣れ、大切に扱いつつ、安全に仕事の手伝いをする。 キ手伝い (ア)(イ)	・自分の楽しみをもとう! ◆自由になる時間(余暇)の過ごし方がわかる。 ◆くふうして余暇を過ごす計画を立てることができる。 ○一日の生活の流れとリズムと健康の関係について ○休日の余暇や楽しみについて Aア(ア)㊦、イ(イ)㊦	・健康管理をしよう ◆仕事に安定的にとりくむことができるように健康管理の方法を知る。 ○体温の計測の仕方、睡眠時間について知る。 Aイ	・健康管理や余暇の過ごし方について考えよう ◆職場で働くことを中心とした生活に求められる健康管理の方法を知る。 ○睡眠時間、休憩時間の利用食事時間の取り方、健康管理の方法、歯科検診や健康診断、休日の過ごし方等 Aイ(イ)㊦	・実習を経験して、健康管理や余暇の過ごし方について考えよう ◆職場の習慣をふまえて、公立の良い休憩時間の使い方を考える。 ○休憩時間、休日の過ごし方、福祉サービス、生涯学習、職場のレクリエーション、福利厚生施設等 Aイ(イ)㊦、イ(ア)㊦、家庭科、保健体育科とも連携

<p>職業科 B「情報機器の活用」 (デジタル機器・インターネットの使い方)</p> <p>(デジタル機器を使った表現)</p> <p>(ルールやマナー)</p> <p>(仕事におけるデジタル機器の活用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 電話や来客の取りつぎをしよう ◆人の来訪や電話がかかってきたことに気づき、関心を持つ。 オ.人とかかわり (ア) (イ) 	<ul style="list-style-type: none"> 電話や来客の取次ぎをしよう ◆人の来訪を伝えたり、電話の取次ぎをしたりすることが大切であり、初歩的な伝言の経験を積み重ねる。 オ.人とかかわり (ア) (イ) 	<ul style="list-style-type: none"> 電話や来客の取りつぎをしよう ◆電話や来客時には、「はい。〇〇です」「今変わります」「〇〇先生にお電話です」などと言って、適切に取り次ぎをする。 ○校内に設置している電話を活用し、児童が率先して取り次ぐことができる。 オ.人とかかわり (ア) (イ) 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なデジタル機器を使う。 ◆情報機器の使い方がわかる。 ○タブレット、固定電話、携帯電話、等の使い方を。知る。 Ｂア 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを使う ◆インターネットを使って情報収集する。 ○コンピュータの基本操作の仕方を知る。 Ｂア 	<ul style="list-style-type: none"> 電話やファクシミリを使う。 ◆電話やファクシミリの基本的な操作方法がわかり、しごとに関する要件を正確に伝えたり、受けたりする。 ○電話の受け答えの仕方を知る。 Ｂイ 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットでの買い物 ◆トラブルの危険性を知り、適切に利用しよう。 ○クレジットカードやキャッシュカード、マイナンバー等 Ｂア
<p>(ルールやマナー)</p> <p>(仕事におけるデジタル機器の活用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆タブレットの使い方がわかり、カメラアプリなどアプリの使い方がわかる。 ○タブレット端末の基本操作 ○カメラなどのアプリケーションの使い方(タブレット端末) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆インターネットの危険性を知ろう ◆情報セキュリティモラルについて知る。 ○ダウンロードや情報セキュリティ、個人情報の認証の危険性について知る。 Ｂア・イ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆インターネットの危険性を知ろう ◆情報セキュリティモラルについて知る。 ○ダウンロードや情報セキュリティ、個人情報の認証の危険性について知る。 Ｂア・イ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆インターネットの危険性を知ろう ◆情報セキュリティモラルについて知る。 ○ダウンロードや情報セキュリティ、個人情報の認証の危険性について知る。 Ｂア・イ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆インターネットの危険性を知ろう ◆情報セキュリティモラルについて知る。 ○ダウンロードや情報セキュリティ、個人情報の認証の危険性について知る。 Ｂア・イ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆インターネットの危険性を知ろう ◆情報セキュリティモラルについて知る。 ○ダウンロードや情報セキュリティ、個人情報の認証の危険性について知る。 Ｂア・イ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆インターネットの危険性を知ろう ◆情報セキュリティモラルについて知る。 ○パスワード、セキュリティソフト、アップデートの重要性を知る。 ○個人情報の保護の必要性について ○ネット依存について Ｂア・イ
<p>職業科 C「産業現場等における実習」 (実習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆身の周りの簡単な手伝いを教員と一緒に、簡単な手伝いや仕事に関心をもつ。 ○教員と一緒に、印刷物を配ったり、身の周りの簡単な手伝いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教室を掃除用具を使って掃除しようとする。 ○教員に支援を求めながら、掃除用具を使い教室の掃除を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆みんなが使用する特別教室を掃除用具を使い、手順を考えながら、進んで掃除することができる。 ○掃除道具を使い、手順を考えながら、掃除を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「産業現場等における実習」に向けて、「職場見学」や「校内実習」、「就業体験」などの実際の学習活動を相互に関連付けながら実施することで、生徒が職業や進路に関わる事柄について関心をもち、それらについて考えたり、伝えたりする。 ○商店や企業、農業、市役所などの公的機関、作業所などの福祉施設などで、一定期間、働く活動に取り組み、職業生活の実験を経験する。 Ｃ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆職場見学や校内実習に加え、就業体験、産業現場等における実習など、生徒が事業所等で、職業や仕事の実践について体験したり、働く人々と接したりする活動を通して、職業や進路などについて理解したり、考えたりする。 ◆準備をして現場実習に行き、はたらくことの大切さや楽しさがわかる。 ○実習についての学習と実践、発表(実習日誌、ワークシート等) Ｃア 	<ul style="list-style-type: none"> ◆産業現場等における実習を通して、就業や卒業後の職業生活を健やかに過ごすために求められる知識や技能及び態度が分かり、身に付ける ○生產品や製品又は商品の名称とその取扱い、それらの社会的有用性、企業の組織体制及び配属された職場における責任と職場で必要とされる作業態度、自分にも他者にも重要な安全・衛生及び健康の維持、休憩時間等の余暇の過ごし方などについて知る。 ○通勤の方法や通勤にふさわしい服装について理解すること、通勤中に起きたトラブルに対処する。 ○礼状を書く。 Ｃアイ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆実習先から指摘されたことや、本人が課題であると感じたことなどに対して、どのように対処すればよいのかについて考え、自ら改善に取り組み表現する。 ○新規の仕事内容や状況の変化へ対応するに当たり、どのような作業指示書があれば理解しやすいのか、どのような用具や補助具、マニュアル等の支援や援助があれば正確な作業ができるのかを比較・検討したり、これまでの学習経験から見立てたりして申し出る。 ○Ｃイ
<p>(実習報告準備)</p> <p>(実習報告)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆身の周りの簡単な手伝いを教員と一緒に、簡単な手伝いや仕事に関心をもつ。 ○教員と一緒に、印刷物を配ったり、身の周りの簡単な手伝いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教室を掃除用具を使って掃除しようとする。 ○教員に支援を求めながら、掃除用具を使い教室の掃除を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆みんなが使用する特別教室を掃除用具を使い、手順を考えながら、進んで掃除することができる。 ○掃除道具を使い、手順を考えながら、掃除を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆身の周りの簡単な手伝いを教員と一緒に、簡単な手伝いや仕事に関心をもつ。 ○教員と一緒に、印刷物を配ったり、身の周りの簡単な手伝いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆身の周りの簡単な手伝いを教員と一緒に、簡単な手伝いや仕事に関心をもつ。 ○教員と一緒に、印刷物を配ったり、身の周りの簡単な手伝いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆身の周りの簡単な手伝いを教員と一緒に、簡単な手伝いや仕事に関心をもつ。 ○教員と一緒に、印刷物を配ったり、身の周りの簡単な手伝いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆身の周りの簡単な手伝いを教員と一緒に、簡単な手伝いや仕事に関心をもつ。 ○教員と一緒に、印刷物を配ったり、身の周りの簡単な手伝いを行う。

個別最適な学び

協働的な学び

教材

個々の手だて

- ・ 集団学習の中での実態に合わせた個々のプリント学習の準備（書ける子供、シール貼りをする子供など）
- ・ 選択肢を提示する。（考えることを促す。）
- ・ 選択肢の数の工夫（2 択から 3 択と徐々に増やす）
- ・ 「発表の型」を準備する。
- ・ 友達や教師に伝える際、絵カードや写真カードを準備する。
- ・ 活動の目標をなるべく具体的に（例「大きな声」）提示する。
- ・ 黒字に白抜きのなぞり書き教材
- ・ 見比べる物が視野に入りやすい大きさ
- ・ 音や操作を通して興味をもてるようにする。
- ・ ある程度重さのある教材を操作して実感できるようにする。
- ・ タブレット端末で、言葉のイメージと一致する画像などを検索する。
- ・ ヒントカードを参照しながら一人で課題が進めるようになる。

その他

- ・ 課題のバリエーションを増やす。
- ・ 引き上げ課題と自立課題のバランスをとる。
- ・ 認知に合わせた教材を作成する。
- ・ 正しくできているか自ら判断できる教材を用いる。
- ・ プリントとアプリの両方をうまく活用する。
- ・ 実態に応じた ICT 教材を活用する。（写真や動画など）
- ・ 適切な AI の使用
- ・ 活動の様子や記録をタブレット端末で記録する。（今日や前回の振り返りが分かりやすくなる。）
- ・ 文字の記入が難しい場合、タブレット端末を使った振り返りを行う。

一緒に

- ・ ペアで短いコラムやセリフを読む。
- ・ ペアやグループで一つの課題を仕上げる。
- ・ グループで口形模倣をする。
- ・ モニターで問題や回答を共有する。
- ・ 絵本などの題材から、セリフや物のやり取りを再現する。
- ・ クイズアプリを使ったクイズ形式の問題を行う。
- ・ タブレット端末で問題に答え（ルーレット形式）動作化しながら発表する。

その他

- ・ 個別学習で使っている教材を集団の中で使用する。
- ・ タブレット端末で自分で調べる→伝える
- ・ 映像や音、写真でイメージを調べた物を共有する。
- ・ 具体物を渡ししながら伝える。（バトンリレー形式）

- ・適切な言葉掛けを行う。
- ・筆記用具の持ち方の指導をする。
- ・教材提示を工夫する。(提示数や提示場所)
- ・教材や活動の順番を工夫する。
- ・課題を部分的に選択して取り組む。
- ・好きな活動を選択する。(具体物、絵・写真)
- ・手がかりを段階的に提示する。
(例 文字→イラスト→言葉)
- ・頑張る所を確認する。
- ・役割の意識をもたせるために、視覚的な役割表を作成する。また、個々の理解を促すための身に付ける物を準備する。
- ・問題、答え、正解を視覚的に提示することで、正誤を分かりやすくする。
- ・苦手な課題、得意な課題のバランスや順番、量を考えて全体の活動を構成する。

評価

- ・教師とハイタッチやアイコンタクトで、できたことを共有する。
- ・即時評価を行う。褒められることを期待できる。(しっかりとできたことを確認し自信をつける)
- ・すぐに評価し、修正する。
- ・記録表や頑張り表などで、教師と一緒に出来高や頑張りを視覚化しながら喜んだりする。
- ・友達の答えを一緒に確認する。
- ・教師が「合っていますか？」など仲介しながら子供達同士で評価ができるようにする。
- ・活動の動画をみんなで見てよいところを評価する。

発表

- ・発表の設定 (話す人、聞く人)
- ・取り組みの成果を発表する。
- ・「話し合う」「人の意見を聞く」「自分自身を振り返る」ことを提示する。
- ・発問を具体的にして意見を引き出す。
- ・子供の成果物を大画面で共有することで、みんなで見合いながら、発表したり感想を言い合う。
- ・発表の方法を具体的な項目にする。
(発表する人、聞いて評価する人が分かりやすい。)
- ・他者の発表を聞いて「いいね」カードで評価する。

相互交渉

- ・やり取りの機会 ・教師が来るまで待つ
- ・「できました」「教えてください」「分かりません」
- ・子供が決める活動を増やす。
- ・子供同士のやり取りを教師が仲介する。
- ・伝える時のセリフを統一するなどして、パターンで覚えた後に、発展させていく。
- ・分からないときに、友達に聞くように設定する。

役割

- ・役割の設定 ・役割の交代
- ・早く終わったら他の友達に教えるなどの役割
- ・できる児童生徒が手本になるようにする。
- ・絵本などストーリーのあるものを題材にして役割を設定する。
- ・分かっている子供が、教えてあげるようにする。
- ・役割を子供達で話し合って決める。
- ・流れ作業の設定

その他

- ・全員で読む、数唱する。
- ・順番を待つ (順番を提示して)、友達を見る。
- ・待っている子供への質問 (友達に注目する工夫)

環
境

物

- ・集中できる座席や物の配置にする。
(パーティション、机の配置を工夫する。)
- ・座面にクッションや滑り止めを置いたり、椅子の脚にゴムを付ける。
- ・答えが見えないような座席配置など
(他者の答えを見てしまう場合)
- ・書見台のように角度をつける。

時間

- ・終わりを意識して取り組む。
- ・やりとり学習を重点的に行う子供を設定するなど
の工夫を行う。(時間や曜日の工夫)

物

- ・教師のところまで自分で報告に行くようにする。
- ・輪になるペアになるなど座席配置の工夫する。
- ・発表や教師の手本を見られるよう座席を配置する。
- ・教師、子供二人以上で机をつけて話し合いながら学習を進める場面の設定を行う。
(子供同士が聞いたり教えたりするために、教師が仲介する。)
- ・机を輪にして話し合うことで相手の様子が見やすいようにする。

※本校の授業研究と協議を基に作成した (令和7年度 東京都立王子特別支援学校 研究研修部・研究推進部門)

《Ⅱ 実践報告資料》

小学部2年 個別学習	授業者名 赤川 沙子
国語・算数	
国語 小学部1段階	言葉の動き【いろいろな言葉】
算数 小学部1段階	数の認識【順番】

① 対象児童の実態

- ・太田ステージⅢー1（前期）
- ・二語程度の発語がある。質問に対してオウム返しが多いが、返答できる時もある。手先は器用に動く。二択の質問に対しては、左側にあるもの、後者のものを選ぶ傾向がある。

② 対象児童の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・ものに注目したり、人と目を合わせたりして、物事に取り組む。（心理的な安定）
- ・最後まで落ち着いて取り組み、一つ課題が終わるごとに「終わりました」と報告する。（コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・特定の教員に「終わりました」のカードを渡し、言葉でも伝える。
- ・イラストのマッチングでは、キャラクターと食べ物の二つを提示し、どちらかを選ぶ。

④ 授業の様子：マッチングは既習課題として良くできていた。著しく改善したプットインについては以下の通りである。

「プットイン」

主なねらい：ものに注目して、手を動かす。

活動の流れ：スポンジを一つずつ取り、容器の入り口をよく見て入れる。



注視が得られずらい上、視覚以外の刺激が無かった。



工夫したこと、改善したこと

- ・手元をよく見て行えるように、カラフルな色の棒を用意したり、コインに食べ物のシールを貼り、興味をもたせる。また、よく見ないと入れられないよう制約をかけ、入ったときに音がするような素材に替えた。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適**手元を見るための工夫が功を奏し、よく見るようになった。結果として、教員からの言葉掛けを減らしても、自分で落ち着いて取り組むことができた。（心理的な安定）
- ・**協働的**改善後の課題に落ち着いて取り組み、一つ課題が終わるごとに、教員と達成を確認して喜ぶ姿が見られ、意欲的に活動に取り組めるようになった。（人間関係の形成・コミュニケーション）

小学部3年 個別学習	授業者名 阿部 夏美
国語・算数	
国語 小学部2段階 【学校で話そう】	
算数 小学部3段階 【平仮名、片仮名を書こう】	

① 対象児童の実態

- ・太田ステージⅢ－1（前期）
- ・特定の教員に絵カードや手話を使って要求や助力を求められることができるようになってきた。全身運動や指先を扱う活動は途中であきらめてしまうことが多い。

② 対象児童の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・発語や手話、絵カードから選択をして教員に伝えることができる。（コミュニケーション）
- ・励ましを受けて、手指を使う課題に最後まで取り組む。（心理的な安定）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・コミュニケーションブックを使って、教員と週末の話をする活動を取り入れる。
- ・複写紙の枚数を教員と一緒に数えたり評価を受けたりすることで、達成感を味わう。

④ 授業の様子

「コミュニケーション手段の獲得」

主なねらい：自ら伝える意識を育てる。

活動の流れ：学習中に「できました」や「ください」などを発語や手話、絵カードで伝える。

工夫したこと、改善したこと

- ・発語に加えて口形模倣を取り入れる。
- ・「ください」の絵カードを加える。
- ・コミュニケーションブックを作成し、教員とやり取りをする機会を増やす。



コミュニケーションブック

「書字」

主なねらい：自信をもって文字を書く。

活動の流れ：筆圧の見える化をするため、複写紙を使用する。平仮名で名前を書き、何枚写ったかを確認する。

工夫したこと、改善したこと

- ・複写紙の枚数記録表を用意して、1週間ずつの記録を取る。「○曜日は一番力を込めて書けたね」などの評価を付ける。



枚数記録表

- 写った分だけシールを貼る。
- 一番たくさん書けた曜日と枚数を振り返る。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適**教員からの励ましや記録表を基にした評価を受けて、手指を使う課題に最後まで取り組むことができた。（心理的な安定）
- ・**協働的**休みの日の出来事を自分からコミュニケーションブックを持って来て伝える様子が見られた。（人間関係の形成・コミュニケーション）

小学部4年 個別学習	授業者名 塩原 佳子
国語・算数	
国語 小学部1段階 言葉の働き【いろいろな言葉】	
算数 小学部1段階 図形【なかまわけ】	

① 対象児童の実態

- 太田ステージⅢ－2
- 言葉の指示はほぼ理解しているが、情緒の不安定さがある。また、周りのことが気になってしまい、学習への集中の持続が難しい。

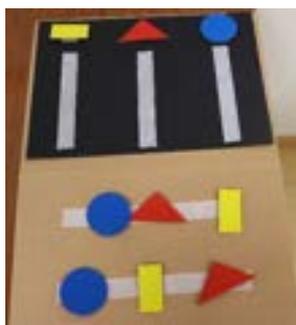
② 対象児童の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- 活動に見通しをもち、最後まで落ち着いて課題に取り組むことができる。（心理的な安定）
- 教員の指示にしたがったり、できたことを報告したりすることができる。（コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- 一つの課題が終わるごとに「できました」と報告し、教員からご褒美カード（アンパンマン）をもらってボードに貼る。

④ 授業の様子

<p style="text-align: center;">「5種類の型はめ」</p> <p>主なねらい：形を見分けて型はめをする。 活動の流れ：指示された色から順番に型をはめていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>平面でシンプルな色、形のマッチングの方が分かりやすいのではないか。</p> </div>  <div style="background-color: #e0ffe0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>工夫したこと、改善したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> • 平面でのマッチングにし、形を確認しやすくした。 • 試行数を減らし、集中が持続できるようにした。 </div>	<p style="text-align: center;">「平仮名マッチング」</p> <p>主なねらい：文字に合った絵を選ぶことができる。 活動の流れ：文字に合った絵カードを選び、文字の横に貼る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>文字とイラストが一緒になった物にすることで確実にできるようにしたらどうか。</p> </div>  <div style="background-color: #e0ffe0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>工夫したこと、改善したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2文字の分かりやすい単語から始めた。 • 絵を手掛かりに確実にできるようにした。 </div>
--	--

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- **個別最適**課題の内容を本児が確実にできるものから、少しずつステップアップしていくようにした。課題の試行数を減らすことで集中が持続できるようにした。（心理的な安定）
- **協働的**課題が終わるたびに、教員からご褒美カードを受け取ることで、教員の指示を聞いたり、課題に意欲的に取り組んだりすることができるようにした。（人間関係の形成・コミュニケーション）

小学部5年 個別学習	授業者名 岩井 玲
国語・算数	
国語 小学部2段階	【いろいろな言葉】
算数 小学部2段階	【10までの数】

① 対象児童の実態

- ・ 太田ステージⅢー1
- ・ 日常生活における理解言語はあるが、発語は少ない。
- ・ 日課表を平仮名で書くことができる。
- ・ 選択肢を選ぶことはできるが、内容の理解までは難しい。
- ・ 視覚的な情報が優位、模倣や粗大運動が得意である。

② 対象児童の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・ 活動の見通しをもち、言葉でのやり取りを通して指示されたものを選択する。（人間関係の形成）（環境の把握）
- ・ 教員の話の聞いたり、できたことを報告したりする。（コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・ 手順表に報告イラストを追加し、その都度教員に「できました」と言葉で伝える。
- ・ 選択肢から選択する。

④ 授業の様子

「動作のイラストと平仮名のマッチング」

主なねらい：動作イラストと平仮名をマッチングすることができる。

活動の流れ：①イラストを見て平仮名を構成する。



工夫したこと、改善したこと

- ・ イラストがバラバラだったので、共通したイラスト（ドロップス）を使用した。
- ・ 1問ずつ出題し、ページをめくるタイプの提示方法に変更した。
- ・ 問題の順番を変えられるようにした。

「動作語クイズ」

主なねらい：動詞を選択することができる。

活動の流れ：①動画を観て、動きに合った動詞の言葉を選択する。



工夫したこと、改善したこと

- ・ イラストでの提示から動きのある動画に変更した。
- ・ 効果音などを取り入れ、正誤を分かりやすくした。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・ **個別最適**言葉の意味を理解し、イラストに合った言葉を選択する。
（人間関係の形成）（環境の把握）
- ・ **協働的**アプリ【やることカード】を使用し、「できました」と報告する。
（人間関係の形成・コミュニケーション）

小学部2年	授業者名 松田 七海
単元名：国語 いろいろな言葉に親しもう/『てぶくろ』の劇をしよう	
国語 小学部2段階 【いろいろな言葉】【劇遊びをしよう】	

① グループの実態

- ・太田ステージⅡ～Ⅲ－2（前期）6名
- ・学習に意欲的な児童が多く、教員からの働きかけや期待に応えようとする様子が見られる。コミュニケーションについては、言葉でやり取りできる児童が3名、曖昧な発音で言葉を発声することができる児童が1名、教員が促すことで発語が出てくる児童が2名である。身近な名詞や動詞は理解している。教員を介して、友達とやり取りしたり、動きを真似したりと、友達を意識しようとする場面が増えてきている集団である。

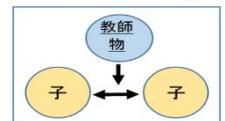
② 対象児童の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・離席や衝動的な行動を減らし、落ち着いて、活動に取り組む。（心理的な安定）
- ・教員や友達との関わりの中で、正しいやり取りや適切な関わり方を身に付ける。
（人間関係の形成・コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ

ステップ2－①

- ・教員や近くの友達を意識し、真似しながら活動できるようにする。
- ・日常生活場面でよく使う言葉（名詞・動詞）や決まったやり取りを繰り返すようにする。



④ 授業の様子

「いろいろな言葉に親しもう」

主なねらい：日常生活でよく使われる動詞を聞いて、動きを再現する。

活動の流れ：①イラストで示された動詞を選ぶ
②選んだ動詞を聞いて、動きを再現する。

工夫したこと・改善したこと

- ・児童全員で一斉に行う問題を増やした。
- ・対象児童の座席の位置を教員と近い位置にした。
- ・問題が終わるごとに花丸ボタンを対象児童に押しってもらうようにした。

『てぶくろ』の劇をしよう

主なねらい：友達に自分から「いれて」と台詞を伝える

活動の流れ：①自分の役のお面をつけ、「てぶくろ」まで移動する。
②「いれて」「いいよ」のやり取りをする。

工夫したこと・改善したこと

- ・劇中に歌を取り入れ、児童がより意欲的に活動へ参加できるようにする。
- ・セリフを一言に決め、同じセリフでのやり取りを繰り返すことで、自発的に言えるようにする。
- ・立ち位置マットを置き、動線を分かりやすくする。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適**児童の「できた」という達成感が高まり、授業に集中して取り組むことができるようになった。（心理的な安定）
- ・**協働的**役になりきって、「いれて」のジェスチャーができたり、「いれて」と言えたりでき、自分から友達と関わろうとする場面が増えた。（人間関係の形成・コミュニケーション）

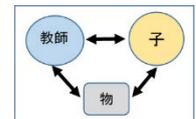
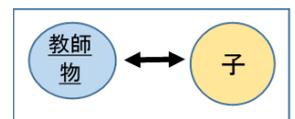
小学部4年	授業者名 杉山 日菜子
単元名：国語「ポケットぽん」	
算数・小学部1段階【動かしてみよう】	
国語・小学部1段階【返事をしてみよう】【はい、どうぞ】	

① グループの実態

- ・太田ステージI-3【4名】
- ・教員の呼び掛けに手を上げたり、目を合わせたりすることがある。要求はクレーン。指差しを含めた簡単な指示を理解できるが、繰り返しの活動が必要。

② 対象児の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・活動の流れに見通しをもたせる。また、他者の支援を受け入れながら情緒を安定させる。（心理的な安定、人間関係の形成）
- ・他者に意識が向くように、教員や物を介してやり取りをする。（人間関係の形成、コミュニケーション）



③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ

- ・名前を呼ばれて応じる。
- ・顔写真カードを見て、友達に渡す

④ 授業の様子

「なまえよび」

主なねらい：自分から返事したりカードを渡そうとしたりする。

活動の流れ：①呼名に視線と返事で応じる。
②顔写真を確認して、友達に渡す。

工夫したこと、改善したこと

- ・丸マットと指差しで立ち位置を示す。
- ・教員も見本として前に立ち、一緒にカードのやり取りをする。

「ポケットぽん」

主なねらい：カードを見て、示された場所に貼ることができる。

活動の流れ：教員から手渡されたカードを見て示された場所に貼る。



工夫したこと、改善したこと

- ・丸マットで立ち位置を示す。
- ・教員が距離を調整し、食べ物カードを食べる真似をする。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 他者に意識が向くように、教員や物を介してやり取りをする。
- ・**協働的** 児童・教師・教材の3項関係から、児童同士の『協働的な学び』に発展させていく。

小学部4年	授業者名	吉田 万太郎
単元名：国語「話を聞こう」		
国語 小学部2段階 【話をよく聞こう】		

① グループの実態

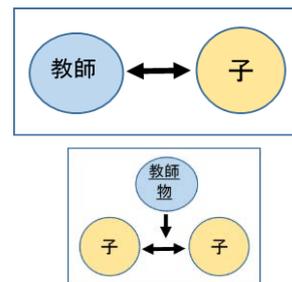
- ・太田ステージⅢ－2（前期）8名
- ・2～3語程度でコミュニケーションをとることができる。離席することもあるが、基本的には落ち着いて取り組む。平仮名や簡単な漢字を書字・読み可能。

② 対象児童の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・答えを聞き、正しいものを選ぶ。（心理的な安定・コミュニケーション）
- ・台詞カードを基に、他者と関わる場面を増やす。（人間関係の形成・コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ

- ・「ヒントを教えてください」と教員に伝える。
- ・友達の作った単語を見て、正しいイラストを選択することができる。

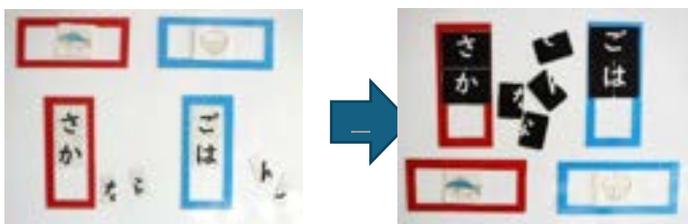


④ 授業の様子

「ばらばら文字」

主なねらい：分割された平仮名の文字を組み合わせ、単語を作成することができる。

活動の流れ：①平仮名の文字を組み合わせる。
②正しいイラストを選択する。



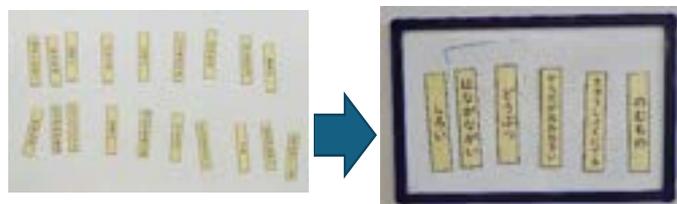
工夫したこと、改善したこと

- ・白抜き文字にした。
- ・単語の下にイラストカードを貼り、やることを視覚的にわかりやすくした。

「これなあに」

主なねらい：3つのヒントを基に答えを導き出すことができる。

活動の流れ：①「ヒントを教えてください」と教員に伝える。
②伝えられたヒントを選択する。
③ヒントが示すものを解答する。



工夫したこと、改善したこと

- ・2人一緒に取り組み、待ち時間を短縮した。
- ・選択肢の提示方法を明確にした。

④ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適**活動内容を理解して、正しい答えを導き出すことができた。（心理的な安定・コミュニケーション）
- ・**協働的**意図的に教員や友達と関わる場面を設定することで、他者を意識したやり取りをすることができた。（人間関係の形成・コミュニケーション）

中学部1年 7グループ	授業者名 野崎 裕紀子
単元名：国語「考えよう、伝えよう」	
国語 中学部2段階【言葉を広げよう】【思いや考えを伝えよう】【役割を決めて話し合おう】	

① グループの実態

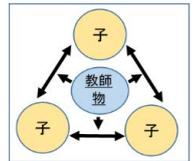
- ・太田ステージⅢ-2 前期（1名）、後期（3名）、Ⅳ-1（2名）、Ⅳ-2（1名）【7名】
- ・平仮名、片仮名の読み書きはほぼでき、落ち着いて授業に取り組める。年度当初は新しい活動に対して戸惑いがあり、自信の無さや経験の少なさが見受けられた。

② 対象生徒の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・自分の気持ちや意見を考え、表現したり伝えたりすることができる。（心理的な安定）
- ・前向きに活動に取り組むことができる。（人間関係の形成）
- ・双方向のコミュニケーションを行うための基礎的能力を身に付ける。（コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ2 - ②～③

- ・発表する、聞く ・全員で何かを達成する
- ・自分の感想や考えを伝える ・課題解決のための自発的なやり取り



④ 授業の様子

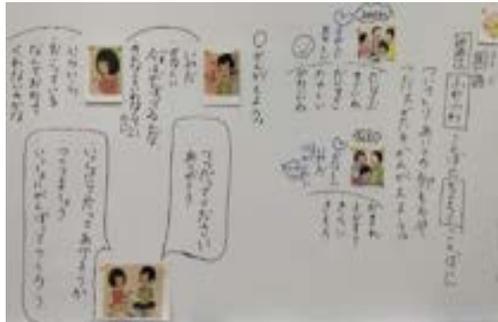
「アドジャン」

主なねらい：自分の意見を持ち
理由と共に友達に伝える。
活動の流れ：テーマに沿って
自分の意見と考えた理由を伝え、
友達の意見を聞く。

工夫したこと、改善したこと
・自分の考えをもちやすいテーマを設定した。
・意見を受け入れられる雰囲気作りをした。

「ふわふわ言葉・ちくちく言葉」

主なねらい：お互いに気持ちよく
過ごせる言葉の表現を考える。
活動の流れ：登場人物の気持ちを
考えて、ワークシートに自分の
意見を書き込み、発表する。



工夫したこと、改善したこと
・生徒がイメージをもてるような場面設定を行い、より具体的に考えられるようにした。

「ふわふわ言葉の良さを伝えよう」

主なねらい：ふわふわ言葉の良さを
まとめ、友達や先生に伝える。
活動の流れ：何をどのように伝えるか、
内容や手段を話し合い、友達と
協力してまとめる。

工夫したこと、改善したこと
・活動内容を生徒同士で話し合い、
自分事として捉えて、意欲的に活動
取り組めるようにした。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 何を考えればよいのかを確認することで、自信をもって意見を言えるようになった。自分達で活動内容を考えることで、自分事として捉えて前向きに活動に取り組めた。
- ・**協働的** 「アドジャン」で意見の伝え方を学んだ後、2～3人のグループで話し合うことで、話し合いの基礎を学ぶことができた。学習したことを周りの人に伝えるために動画にまとめることで、共通の目標に向かって協力して活動することができた。

中学部2年 国語4グループ	授業者名 今井 拓海
単元名：国語「文章を聞いて、話を読み取ろう」	
国語・小学部3段階 伝え合う【人に聞いてみよう話してみよう】 (聞き取る)(発表する)	

① グループの実態

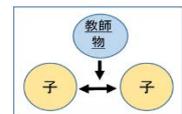
- ・太田ステージ(アセスメント) Ⅲ-1前期1名 Ⅲ-2前期6名 計7名
- ・平仮名の読み書きができる生徒は2名である。多くの生徒は、簡単な文を見たり読んだりして内容を理解することはできるが、文を聞いて理解したり、自分で文を構成したりする力はまだ十分に身に付いていない。
- ・場面や状況、自分の伝えたいことを整理することや、他者への適切な伝え方について課題を抱えている生徒もいる。

② 対象児の自立活動の基礎課題 (個別最適な学びの観点)

- ・自分から関わろうとする。(人間関係の形成)
- ・自分の思いや考えを他者に伝える。(コミュニケーション)

③ 「伝え合い学び合う」しかけ (協働的な学びの観点)・ステップ

- ・前に出て発表する場面をつくる。
- ・文章に合うイラストを用意し、イラストをつなげて文章の内容を読み取れるようにする。



④ 授業の様子

<p>「文章を読もう」</p> <p>主なねらい：話の登場人物、出来事、場所などを理解することができる。</p> <p>活動の流れ：前にでて、音読をすることで理解する。</p> <p>工夫したこと、改善したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容をイメージしやすいように、イラスト等の視覚的手がかりを提示する。 	<p>「プリント学習」</p> <p>主なねらい：文章を読み取り、内容をもとに質問に答える。</p> <p>活動の流れ：学んだことを振り返る。</p>  <p>工夫したこと、改善したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成できたことを積極的に賞賛し、自信をもてるようにする。
---	---

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・ **個別最適** 移動教室の体験から、自分が楽しかったことを選択肢から選ぶ生徒もいたが、文章を確認しながら取り組むことで、正しい答えを選ぶことができた。
- ・ **協働的** 一文ずつ順番に読むことで、みんなで協力して読むことができた。

高等部1年 5グループ	授業者名 張替 伯仁
単元名：国語「俳句」	
国語 高等部1段階 読む【幅広く読み物を読もう】	

① グループの実態

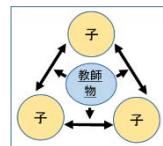
- ・太田ステージⅢー2～Ⅳー1
- ・言葉での簡単な応答ができる。
- ・発語では活舌に課題があり聞き取りにくい。
- ・マイペース傾向が強く課題を自己判断で行ってしまい適切な回答から反れることがある。

② 対象生徒の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・他者の助言を受け入れながら、適切に活動情緒を安定させて人と関わることができる。（心理的な安定）
- ・状況や相手に応じて、適切な言葉と表現でコミュニケーションすることができる。（コミュニケーション、人間関係の形成）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ

- ・課題にちなんだ映像や音を加えて、感想を膨らますことができるようにする。



④ 授業の様子

「俳句」

主なねらい：俳句を音読して感想を話し合う。

活動の流れ：五七五を意識して読む、句に込められた情景や状況を、音声を通してイメージする。



工夫したこと、改善したこと

- ・必要に応じて、リズム感や語感を意識した読み方を師範した。
- ・ICT教材を用い、視覚や聴覚からイメージを引き出せるようにした。

⑥ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 読みが苦手な生徒も、17文字のため、繰り返して練習を行うことができた。
- ・**協働的** 視覚と聴覚に投げかけたことで、生徒に興味を持たせ、生徒の言語を引き出した。
- ・**協働的** 池のイメージを、写真をもとに膨らませ、話し合った。

高等部2年 グループ	授業者名 市村 吾希子
単元名：国語「現代詩を書こう」	
国語 高等部2段階【言葉を豊かに】	

① グループの実態

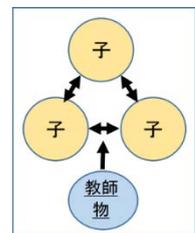
- ・太田ステージⅣ－1 2名、Ⅳ－2 4名、Ⅴ 2名
- ・漢字の読み書きは小学校中学年程度。読解力は小学校低学年程度。態度は問題ないが、主体的とは言い切れない。静かな雰囲気。

② 対象児の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・自分の考えをまとめたり、表出したりすることができる。（人間関係の形成）
- ・相談するなど、双方向のコミュニケーションを行うための基礎的能力を身に付ける。（コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ②－2～③

- ・小グループで（2～3人）題材になるものを探す。
- ・自分で調べたものを発表する。友達の発表を聞く。



④ 授業の様子

「詩のテーマをグループ毎に決める」

主なねらい：言葉を連想して豊かにする。

活動の流れ：題材になるものを探す。調べたものを発表する。友達の発表を聞く。

- ・工夫したこと、改善したこと

個だけで調べ物をしていたところから、友達と共同して調べられるようにした。

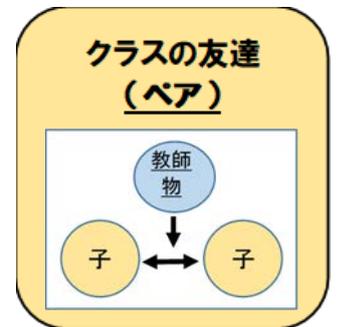
⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 少人数で活動することで普段発言の少ない生徒が発言できた。
- ・**協働的** 個だけで調べ物をしていたところから、友達と共同で調べられるようにした。互いの意見を出して詩を作っていき、話し合う中でイメージの共有もできていた。

中学部1年	授業者名 川原 奈保
単元名：職業「ありがとうを伝えよう」ヨックモック授業オリエンテーション	
職業 中学部1段階 職業生活（働くことの意義）	

① 生徒の実態

- ・太田ステージⅢ－2（前期）
- ・1対1でなくても全体指示に応じて、「仲間の行動を見ながら」動くことができる。
- ・話を聞かずに自分で判断して行動してしまうことがある。
- ・周りが気になり、勝手に友達を手伝おうとすることがある。



② 対象生徒の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・苦手な活動では消極的になることがある。（心理的な安定）
- ・運動技能は高いが疲れやすい。（身体の動き）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ3

- ・友達や教員に自分から関わろうとする。
- ・友達の発表を聞く、見る。
- ・お互いに身だしなみを確認し合う。チェックシートを活用する。

④ 授業の様子

「ありがとう」を伝えたい相手を決めよう！
 主なねらい：授業の中で、感謝の気持ちを伝えたい人を考える。
 活動の流れ：①身だしなみの確認。
 ②感謝の気持ちを伝えたい相手を考える。
 ③感謝の気持ちを伝えるプレゼントの箱のデザインを考える。

工夫したこと、改善したこと

- ・身だしなみ確認でチェックシートを活用した。

「相手に伝わるふるまい方について考える」
 主なねらい：感謝を伝えたい人への贈り物の渡し方を知る。
 活動の流れ：①「ありがとう。」の気持ちを伝える方法の動画を見る。
 ②渡し方の手順を聞き、手本を見る。
 ③ふるまい方に気を付けて渡す練習をする。

工夫したこと、改善したこと

- ・手渡している様子の良い点を確認してから、実践した。
- ・友達同士で渡し方を見合った。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 自分の身だしなみが正しいかどうか確認する。
- ・**協働的** 友達の身だしなみについてチェックシートを活用して確認する。
- ・**個別最適** 自分が「ありがとう。」の気持ちを伝える際のふるまい方を知る。
- ・**協働的** 友達が作成した箱のデザインを見たり、全体の前で渡し方を発表したりする。

高等部2年 総合類型	授業者名 島田 剛
単元名：職業「実習激励会にむけて」「実習激励会のふりかえり」	
職業 高等部 1 段階 実習の事前学習	

① グループの実態

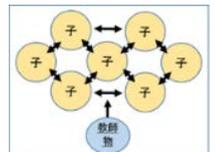
- ・太田ステージⅣ-1～Ⅳ-2 16名
- ・卒業後の進路先として、企業就労を目指す生徒が多い。
- ・小学校中学年から高学年くらいの基礎学力があるが、経験不足などから十分に力が生かせていない。

② 対象生徒の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・言語の受容と表出。受け取る一方で、自分から発信することが少ない。そのため、悩み等をため込むことが多い。（コミュニケーション）
- ・スポーツは得意だが、柔軟性に欠ける。特に肩甲骨周りが硬い。（健康の保持、身体の動き）
- ・過去の自分の職場体験を振り返り、自分の課題や目標を考えた。
- ・自分の課題や目標から、実習激励会で先輩に聞く、質問を考えた。

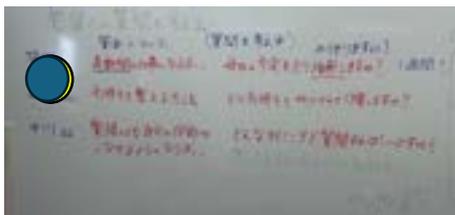
③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ3

- ・友達の意見を聞き、共有して、先輩への質問を考えた。
- ・実習激励会で実際に先輩に質問した。
- ・先輩の回答を後日振り返り、自分の感想を発表した。
- ・友達の感想を聞きあい、共有した。



④ 授業の様子

「先輩への質問を考えよう」
 主なねらい：1年生の自分の体験を振り返る。
 活動の流れ：体験の中から、先輩に質問したいことを考える。



工夫したこと、改善したこと
 ・ワークシートを用意して項目ごとに体験を振り返りやすくした。

「実習激励会の振り返り」
 主なねらい：自分が感じたことを言葉で表現する。
 活動の流れ：①先輩の回答を思い出す。
 ②ホワイトボードに書き出し、みんなで共有する。



工夫したこと、改善したこと
 ・友達の感想もホワイトボードに書いて、お互いに参考にできるようにした。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- **個別最適** 先輩への質問、という形で、自分の課題や不安に感じていることなどを言葉で表現することができた。
- **協働的** 先輩に質問し、回答を得ることができた。
- **個別最適** 回答を得ることで、自分の課題の解決策を見つけることができた。
見つけることができた喜びを自分の言葉で表現することができた。
- **協働的** 自分の課題の解決策がわかった喜びを友達と共有することができた。

高等部3年 総合類型	授業者名 飯村 節
単元名：職業「実習激励会にむけて」「実習の振り返り」	
職業 高等部 1 段階 産業現場等における実習の事前、事後学習	

① グループの実態

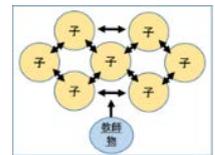
- 太田ステージⅣ-1～Ⅳ-2 16名
- 卒業後の進路先として、企業就労を目指す生徒が多い。
- 小学校中学年から高学年程度の基礎学力があるが、経験不足などから十分に力が生かせていない。

② 対象生徒の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- 1年生の時は、行事の後などに疲れて欠席することが度々あった。（健康の保持）
- 状況に応じたコミュニケーションが難しい。一つの言葉から全体をイメージすることが難しい。（コミュニケーション）
- 自分の課題に自覚がない。（環境の把握、コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ3

- お互いに目標の発表練習を聞き、気付いた点をメモした。
- メモしたことを、お互いに発表しあうことで、お互いに改善しあった。
- 実習激励会で、後輩に向けて発表した。



④ 授業の様子

「目標を考えよう」

主なねらい：自分の課題を意識し、3年生の実習の目標を考える。

活動の流れ：①2年生の実習を振り返る。
②目標を考える。
③お互いに発表しあいメモする

工夫したこと、改善したこと

- 日常生活や作業学習、教科学習など様々な場面で共通して課題に取り組むことにした。

「現場実習の振り返り」

主なねらい：自分の課題に気付く。

活動の流れ：①教員と実習の反省会を振り返る。

②自分の課題を整理する。

③これから取り組むことを本人が聞かせる。

工夫したこと、改善したこと

- 実習の振り返り面談の内容を具体的に本人と思い出し、自覚を促した。
- 自覚した上で、これから取り組む課題を本人と一緒に考えた。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- **個別最適** 自分が置かれている立場を理解する。（3年生の実習の目的を具体的に知る）
- **協働的** 激励会の発表練習では友達の良い点に気付いて、メモに取る。
- **個別最適** メモの取り方に課題があることに気が付いた。
自分の作業スピードが遅いことに気付くことができた。
- **協働的** これから課題解決のために取り組むことを教員と一緒に考えることができた。